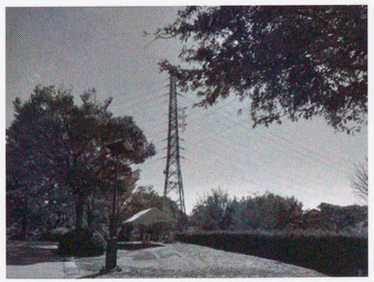
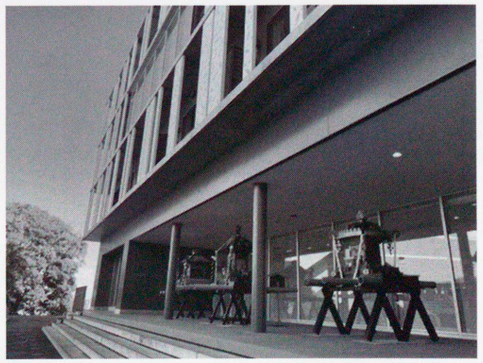
ふじみの

No.56

東京農大畜友会





畜友会の皆さんへ

畜産学科長・動物科学科長・畜友会会長　桑山岳人

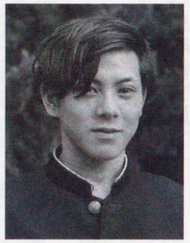
二〇一八年四月東京農業大学農学部は改組し、二〇二一年度までは、旧学科と新学科の学生が共存しています。そんな中開催された今年度の収穫祭では、畜産学科三・四年生と動物科学科一・二年生との合同チームで昨年度に引続き体育祭で準優勝という好成績を収める事が出来ました。

もちろん、学科の準優勝も嬉しかったのですが、それよりも、農学部として、優勝（農学科）、準優勝、三位（バイオセラピー学科・生物資源開発学科・デザイン農学科の合同チーム）と上位三位までを独占したことは農学部の教員として格別な喜びでした。神輿は、繊細な造りが評価され、農学部の中で第一位でした。農学部の特徴は、世田谷キャンパスの学科とは違い、学生も教職員も農学部の他学科も応援し、学部を上げて頑張れる事です。それがあるからこそ、上位三位までを独占すると言う偉業をなし得たのだと思います。これは、農学部の誇りです。三年生は来年度畜友会の第一線の活動からは退きますが、来年度は動物科学科の統一本部をバックアップするとともに農学部全体を盛り上げて下さい。これからも皆さんは、畜産学科・農学部・農大の仲間であった事を誇りとして頑張って下さい。

令和二年三月　吉日

ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長　中牟田　泰　央



日ごとに春を感じる暖かな日差しに、梅の香りが爽やかに漂う今日この頃、今年も「ふじみの」第五十六号を発刊することとなりました。

本誌には畜産学科・動物科学科の先生方からの寄稿や昨年度の事業報告を記載しています。そして、畜産学科として長い時間を共に過ごした仲間たちの体験記が記載されています。

是時、隅々までご覧頂けたら幸いです。

ふじみの
目　次

畜友会の皆さんへ　畜産学科長・畜友会会長　桑山　岳人　1

ふじみの発刊にあたり　畜友会委員長　中牟田泰央　3

同窓会だより

「ふじみの」第五十六号発行によせて　畜産学科同窓会会長　栗原　良雄　6

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会　畜産振興会会長　半澤　惠　7

研究室だより

家畜繁殖学研究室　9
家畜育種学研究室　12
家畜生理学研究室　15
家畜飼養学研究室　17
畜産物利用学研究室　19
家畜衛生学研究室　21

ふじみの寄稿原稿（教員）

名称　原　ひろみ　24
大学で学んだこと、ともに過ごした仲間の大切さ　髙橋　幸水　25
ふじみの第五十六号　畜友会の思い出　黒澤　亮　27

集う学友

貴重な体験　4年　岩田　悟　29
繋がりとゴール　3年　日下部英介　30

畜友会だより

令和元年度畜友会活動報告　31
平成三十年度畜友会決算報告　32
平成三十年度収穫祭特別会計収支決算報告　33
平成三十一年畜友会予算　34
平成三十一年収穫祭特別会計予算　35
令和元年度畜友会役員　36
第二十回厚木キャンパス収穫祭　37
第一二八回体育祭事業報告及び結果報告　45
東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則

第二十回厚木キャンパス収穫祭・第一二八回体育祭各部門委員長より

チカラを糧に自分たちらしく　統一本部委員長　3年　中牟田泰央　51
最後のステージ企画　特別企画委員長　3年　松宮　桃香　52
第二十回収穫祭　宣伝隊委員長　3年　松澤　琉貴　53
パンドラの箱　神輿部門委員長　3年　池田　聖　54
大好きな場所　体育祭部門委員長　3年　大畑　夏帆　55
最高の仲間たちと過ごした時間　櫓装飾委員長　3年　半谷安紗美　56
後期の奨学金が尽きた。　装飾部門委員長　3年　木瀬康太郎　57
追想の刻　家畜苑苑長　3年　木原　龍成　58

編集後記　編集委員長　3年　大畑　夏帆　59

同窓会だより

「ふじみの」第五十六号発行によせて

東京農業大学農学部畜産学科同窓会
会長　栗原　良雄

「ふじみの」第五十六号発行おめでとうございます。卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。衷心よりお祝い申し上げます。皆さんはこれから畜産学科同窓会のメンバーになります。大いに歓迎いたします。

畜産学科は、一九四七年（昭和二十二年）千葉県茂原市に千葉農学部の専門部畜産科として増設、一九四九年（昭和二十四年）新制大学農学部畜産学科として創設されて七十三年（七十一年）の歴史を持つ、全国大学の中で唯一の畜産学科です。社会に出てからは畜産学科の卒業生として誇りを持って活躍されることを期待しています。

社会に出てからはいろいろな経験をされることと思います。いろいろな壁が待ち受けていると思いますが、臆することなく前を向いて歩んでください。必ず乗り越えることが出来ると思います。いずれにしても一日一日を無駄にしないで歩んでください。

学生時代に得た友達は一生の宝です。良き友をたくさん作って下さい。

最後になりましたが、これまで畜友会の役員をはじめいろいろな行事で活躍をされた方、大変ご苦労様でした。収穫祭をはじめ諸活動でいろいろな苦労があったと思います。その中で得た経験は貴重です。これからの糧にして下さい。

現在、役員をされている方、畜友会の名前が後世に残るよう頑張って下さい。応援致します。

以上

令和元年十二月

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会　便り

東京農業大学畜産振興会
会長　半澤　惠

東京農業大学畜産振興会が発足して、二十九年が経ち「ふじみの」に便りを執筆する時期となりました。まず本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介します。

本会は平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君（当時畜産学科二年在学中）のご両親から賜ったご寄付を農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生諸氏の奨学に生かすことを目途に、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可を得て設立されました。資産には、東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金（設立時）、賛助会員会費（受領実績：延べ八百六十四名）、一般寄付金（受領実績：延べ百十一名）を加えて運営してまいりました。会の運営は、学内外の卒業生ならびに学科教員を中心に本会の役員としてご対応頂いてきました。

本会では令和元年年十二月現在、成績優秀者を奨学生に採用（延べ百二名）してきました。これに加え、過去には優秀卒業論文賞の授与（計二十七名）、姉妹校短期留学生並びに渡米農業実習生への交通費の一部支給（八名）、関連学会への学術論文掲載や学術集会での発表に対する奨学（二百七十五名）、ならびに経済的に困窮した学生への奨学金の一時貸与も行いました。さらに平成九年四月の厚木キャンパス開学から二年間は、本キャンパスには研究室が存在せず学生のみという状態だったことを鑑み、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリャマ雌雄各一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜はいずれも、厚木キャンパスでお披露目の後、本学富士農場に繋養されました。

あれから二十二年が経過し、本年三月には厚木キャンパス育ちの第十九期の学科学生ならびに第十七期の博士前期課程大学院生および第十四期の博士課程後期大学院生が卒業します。平成二十七年十月には新学生会館が開館し、平成二十八年よりコンビニエンスストアが導入され、さらに令和元年九月から実験実習棟の使用が開始され、キャンパスの整備もほぼ完了しました。

このような中、本年四月には農学部改組が三年目を迎えることになり、畜友会の母体である畜産学科の在学生も四年生のみとなります。卒業生も在校生も一様に名残惜しい

気持ちを持たれるかも知れません。人生は過去からの連続であり、畜産学科、畜友会に対する郷愁の念はとても大切です。と同時に過去へのこだわりを捨て、その気持ちを新たな出発へのエネルギーに換えて農学部、農大生の学生生活の充実に貢献してこそ真に意義深いものとなります。

さて今回の改組に伴いカリキュラムも変更され、改めて広く教材を集める機会を得ました。その中で、かのダーウィンの進化論の主張が「変化する者が生き残る」と要約できることを改めて認識しました。自然も社会も常に変化し続けています。農大生らしくしっかりと大地を踏みしめつつも、変化を恐れず前途洋々たる未来を切り開いていってください。

卒業生にあっては本学で培った実学力をフル活用し、新たな立場、新たな環境で多いに活躍されることを、また在学生にあってはかけがえのない学生生活を充実したものとされることを心より祈念し、振興会便りといたします。

研究室だより

家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室は桑山岳人教授、岩田尚孝教授、白砂孔明准教授のご指導のもと、大学院生二十名、四年生三十四人、三年生三十二人で構成され、生徒同士で協力し合いながら日々の研究に取り組んでいます。

当研究室では動物の生殖や発生のメカニズムの解明に取り組んでいます。具体的には、生殖細胞、胚、それに由来する動物の産子の正常性におよぼすストレス、加齢そして疾病の影響について、遺伝子やタンパクの発現、内分泌そして動物の行動などを対象に研究しています。また発生工学および生殖補助技術を応用して、絶滅危惧種などを含む動物の遺伝資源の保存や増殖に役立てる技術の開発をめざしています。

三年生は生殖学の基礎的な知識、実験方法等を身に付けると共に大学院生や四年生の研究活動を補助しながら興味のある研究分野について理解を深め、研究テーマを決定し日々先輩たちの指導の下研究を行っております。

当研究室では国内や海外で行われる学会にも積極的に参加し、その成果を論文として関連学会に発表しています。毎日遅くまで研究に励んでいてとても研究熱心な研究室です。

研究室の主な年間行事は、新入室員歓迎会（四月）、論文発表会（年数回）、収穫祭の文化学術展での研究発表、スポーツ大会（年二回）、サッカー大会（年数回）、研修旅行、忘年会、卒業生送別会等があります。

繁殖学研究室は日々の研究、勉強と楽しい行事を両立しながら充実した研究室生活を送っています。

氏名	卒業論文題目	指導教員
安喰　実桜	ウシ顆粒層細胞の cfDNA 分泌と卵子の体外発育の関係	岩田　桑山
五十嵐麻美	多糖類ゲルを基質に用いたブタ単為発生胚の体外発育	岩田　桑山
石田　大樹	ウシの免疫細胞および子宮における NLRP3 インフラマソーム機構の検討	白砂　桑山
井上　裕貴	miRNA によるブタ顆粒層細胞及び初期胞状卵胞への影響	岩田　桑山
遠藤　寛徳	鳥骨鶏の就巣性と甲状腺ホルモンの関係	桑山　白砂
岡　望美	ミトコンドリア由来の活性酸素がブタ単為発生胚のミトコンドリア数に及ぼす影響	岩田　桑山
小酒部　駿	Resveratrol による SIRT1 活性化がブタ単為発生胚に及ぼす影響	岩田　桑山
影山　美桜	ミトコンドリア由来の活性酸素がブタ単為発生胚のミトコンドリア数に及ぼす影響	岩田　桑山
勝山晃二郎	カピバラにおけるハズバンダリートレーニングを用いた採血方法の確立	白砂　桑山
金子みのり	受精卵移植由来ウシの肥育とその肉質の評価に関する検討	岩田　桑山
鎌田　健吾	カピバラにおけるハズバンダリートレーニングを用いた採血方法の確立	白砂　桑山
川鍋　絢子	希少動物の保全を目指した簡易的な組織凍結法の検討	白砂　桑山
久保穂乃佳	ガラス化前のレスベラトロール処理がミトコンドリアとウシ胚発生に及ぼす影響	岩田　桑山
高　光穂	妊娠高血圧腎症モデルマウスにおける自然炎症に関する検討	白砂　桑山
小見山大夢	LPS 投与が精巣の自然炎症機構におよぼす影響	白砂　桑山
小柳　舞夏	カピバラにおける唾液採取法の確立と唾液サンプルを用いたストレス評価	白砂　桑山
近藤　理沙	ストレス誘導性異常妊娠モデルマウスによる低出生体重仔の成長後への影響	白砂　桑山

酒井　隼人	凍結保存したブタ顆粒層細胞の追加が初期胞状卵胞卵子の体外発育響に及ぼす影響	岩田　桑山
椎名　真希	リピートブリーダー牛 (RBC：Repeat Breeder Cow) の特徴	白砂　桑山
嶋崎紗也華	パルミチン酸による胎盤炎症には NLRP3 インフラマソームの活性化が重要である	白砂　桑山
杉本　彩嘉	ウシ初期胞状卵胞の体外発育に適する自然素材由来ゲルの検討	岩田　桑山
瀬島　海	妊娠高血圧腎症病因である sEng と sFlt1 の産生と細胞死の関連	白砂　桑山
竹内　誠人	カピバラの被毛中コルチゾール濃度とストレスとの関連	白砂　桑山
竹澤　琉璃	異なる酸素濃度で培養された顆粒層細胞に抗酸化剤が及ぼす影響	岩田　桑山
永田　修大	miR19b がウシ顆粒層細胞、卵子顆粒層細胞複合体に及ぼす影響	岩田　桑山
仲田　希望	カピバラの性行動と生殖器の触診を指標とした発情周期特定方法の確立	白砂　桑山
永田　美樹	キサンタンガムを基質に用いたウシ体外受精胚の培養	岩田　桑山
西澤飛勇馬	日本の離島（天売島・奄美大島・沖縄本島）におけるネコ被害対策と課題	白砂　桑山
濱中　大暉	ブタ単為発生胚の Ploidy が細胞外 DNA 量に及ぼす影響	岩田　桑山
堀　恵理子	カピバラの毛を用いた雌雄判別方法の確立	白砂　桑山
堀口みなみ	動物園来園客の満足度を高める展示方法の提案	白砂　桑山
村松　拓海	ムツオビアルマジロにおける糞中性ステロイドホルモン測定による発情周期鑑定	白砂　桑山
森田　寛康	精漿由来のエキソソームの添加がブタ単為発生胚の体外発生に及ぼす影響	岩田　桑山
勝倉　祐介	加齢が妊娠マウスの胎盤における免疫機能に与える影響	白砂　桑山

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわたる研究活動が実施されています。

当研究室では、野村こう教授をはじめ、米澤隆弘准教授、高橋幸水助教の指導の下、大学院生二名、四年生三十七名、三年生三十二名によって構成され、室員各自の自覚と相互の協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては家畜（ウシ・スイギュウ・ニワトリ・ブタ・ヤギ・イノシシ）を供試動物として、マイクロサテライトマーカーやミトコンドリアDNA遺伝子情報による連鎖地図作製、系統遺伝学的研究や、統計遺伝学に関する研究などが行われています。

研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などが行われ、室員は実験動物の管理、毎週行われているゼミ、定例室員会、それぞれのテーマに即した研究などを日々行っています。さらに研究活動は学内にとどまらず、先生方や院生により学会発表などが精力的に行われています。

氏名	卒業論文題目	指導教員
赤木　樹	DNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究	髙橋
田中　咲子	Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究	野村
宇佐美寧々	Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究	髙橋
岡部　克海	ミトコンドリアDNAに基づくヤギの家畜化と全世界伝播プロセスの解明	米澤
御調　陽光	ウシの肉質関連遺伝子多型に関する研究	野村
小幡　祐介	DNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究	髙橋
折田　陸	東南アジアにおけるウシ亜科家畜の系統遺伝学的研究	髙橋
君島　健斗	Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究	髙橋

木村　海斗	ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究	野村
小嶋あづさ	家畜ブタの突然変異率と品種の成立史の進化的時間スケールの推定	米澤
後藤優希乃	東南アジアにおけるウシ亜科家畜の系統遺伝学的研究	髙橋
小宮山歩夢	Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究	野村
小室日向子	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	髙橋
佐伯　瞳	東南アジアにおけるウシ亜科家畜の系統遺伝学的研究	髙橋
佐野　紘一	ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究	野村
篠木　徹	ミトコンドリアDNAに基づくヤギの家畜化と全世界伝播プロセスの解明	米澤
杉本　真琴	Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究	髙橋
鈴木　咲貴	ウシの肉質関連遺伝子多型に関する研究	野村
鈴木　花奈	Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究	野村
鈴木　麻莉	家畜ブタの突然変異率と品種の成立史の進化的時間スケールの推定	米澤
鈴木　雄大	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究	野村
髙松　祐介	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究	野村
高見柚加子	家畜ブタの突然変異率と品種の成立史の進化的時間スケールの推定	米澤
谷口　聖奈	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	髙橋
堤　光太郎	ウシの肉質関連遺伝子多型に関する研究	野村
時田　慶斗	DNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究	髙橋

永野　央也	ミトコンドリアDNA調節領域完全長配列に基づいた日本鶏の起源と進化に関する集団遺伝学的研究	米　澤
西田　由樹	ミトコンドリアDNA調節領域完全長配列に基づいた日本鶏の起源と進化に関する集団遺伝学的研究	米　澤
藤好　遂士	ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究	野　村
藤原　裕之	東南アジアにおけるウシ亜科における家畜の系統遺伝学的研究	高　橋
船津　崇弘	ニホンミツバチの遺伝的多様性に関する研究	野　村
星　圭介	ニホンミツバチの遺伝的多様性に関する研究	野　村
右田　一葉	家畜ブタの突然変異率と品種の成立史の進化的時間スケールの推定	米　澤
水谷　祐太	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究	野　村
村本　捺貴	ミトコンドリアDNAに基づくヤギの家畜化と全世界伝播プロセスの解明	米　澤
和井田涼太	ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究	野　村

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は半澤惠教授をはじめ、平野貴教授、原ひろみ助教のご指導のもと、大学院生二名、学部四年次生三十四名、三年次生三十四名で構成されています。

本研究室では家畜・家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究をしています。今年の研究対象動物は、ウシ、ブタ、ウマ、ニホンウズラ、ヤギ、ウサギ、モルモットです。

学年毎の活動として、三年次は生理学に関する基礎的な知識、技術を身につけるために講義、ゼミ、実験実習を行い、日常的な実験動物（ヤギ、ウサギ、ニホンウズラ）の管理、院生、学部四年生の卒業論文の補助とともに、各実験の知識を得るために夏休み前から課題別実験を行います。四年次生はこれまで得た知識、技術を持って各々が興味を持った研究を引き継ぎ、あるいは新規のテーマを先生との議論により決定し、卒業論文に取り組んでいます。院生は各々の学位論文のテーマで日夜研究に取り組んでいます。年間の主な行事は、新入室員歓迎会、卒業生との交流会、収穫祭参加、研修旅行、課題別実験成果発表会、卒業論文発表会、卒業生歓送会、年二回の納会、年一回の畜舎大掃除、週一回のゼミナールがあります。

氏　名	卒業論文題目	指導教員
浅山　丈偉	黒毛和種のSCD p.A293V多型と枝肉形質の関連	平　野
石山絵津子	ウサギ毛色遺伝子について	原
泉海　由希	異常卵生産ウズラの体重、体温および週齢との関係	半　澤
伊藤　一樹	競技馬の運動内容および状態別における赤血球浸透圧脆弱性と赤血球性状の年間変動	半　澤
今村　哲	ニホンウズラTLR3遺伝子の多型探索	原
上江洲安志	石垣牛における枝肉形質関連遺伝子の効果検証	平　野
小川　真祈	ニホンウズラ雌雄および週齢間の血糖値比較	原
小川　凌汰	競技馬の運動内容および状態別における赤血球浸透圧脆弱性と赤血球性状の年間変動	半　澤
樫村沙緒理	モルモットの爪中コルチコステロン測定による慢性ストレスの判定	半　澤

金山　銀河　成熟と幼雛ウズラの腸内細菌種の違い　原

齋藤　康成　黒毛和種におけるRBP4上流の多型と枝肉形質の関連　平野

櫻井　勇治　乳牛の乳汁中体細胞数および産乳形質とPRMT2多型の関連　平野

佐々木祐太　黒毛和種の早産を伴う虚弱子牛症候群の候補原因変異解析　平野

坂本　大貴　黒毛和種におけるRBP-4遺伝子上流域の多型探索　平野

鈴木聡一郎　黒毛和種のSTRA6多型と枝肉形質の関連　平野

田口　順平　競技馬の運動内容および状態別における赤血球浸透圧脆弱性と赤血球性状の年間変動　半澤

谷　洋介　褐毛和種高知系における枝肉形質関連遺伝子の効果検証　平野

谷　陽平　黒毛和種のRBP-4遺伝子多型と枝肉形質の関連　平野

中江　睦月　競技馬の運動内容および状態別における赤血球浸透圧脆弱性と赤血球性状の年間変動　半澤

永岡　風音　免疫学的去勢豚と外科的去勢豚間のストレスマーカーの比較　半澤

永木　愛梨　ホルスタイン種における子牛死亡候補領域のALKBH1多型による解析　平野

生井　斗真　脂肪交雑QTLであるBTA21-40cMの効果検証　平野

新美　沙織　ヤギの尿性状の日間変動　原

野口　泰世　黒毛和種のRBP1多型と枝肉形質の関連　平野

畠山　良太　ニホンウズラTLR4遺伝子exon2-3の多型探索　原

花森　悠平　黒毛和種子牛死亡の候補遺伝子変異探索　平野

浜田由季乃　イヌの混合ワクチンの副作用と血漿生理値の関係調査　原

比嘉　楓　アグー豚の椎骨数責任遺伝子の塩基配列解析　平野

本間みのり　黒毛和種における低受胎責任遺伝子FOXP3の多型解析　平野

峯松ひなた　銘柄豚における兵庫県と神奈川県の経済性の比較について　半澤

三宅　巧馬　ニホンウズラHSP47遺伝子のSNP探索　原

家畜飼養学研究室

家畜飼養学研究室は庫本高志教授、林田まき准教授、黒澤亮助教のご指導の下、四年生三十六人、三年生三十二人で構成されています。

この研究室では、動物の生理的恒常性を維持するために必要な栄養素やその消化、吸収、代謝について基礎栄養科学的手法から、分子生物学的手法や新しい分析手法を用いた研究まで幅広く行っています。ウシやブタ、ニワトリ、ヤギなどの畜産動物だけではなく、マウスやダンゴムシなどの小動物、ウズラやダチョウなどの鳥類、野生動物であるエゾシカなど様々な動物を研究対象としています。

研究室活動は、室員の交流や団結力を深めるために歓迎会や納会など様々な行事がありました。特に力をいれたのは収穫祭であり、文化学術展示において、約四千人もの方々にお越しいただき、大成功を収めることが出来ました。特にふれあいコーナーは行列ができるほどでした。模擬店でもダチョウとエゾシカのお肉を用いた焼き肉を販売し、当日は早々に売り切れになるなど、大好評でした。他にも卒業生祝賀会などもありました。

先生方は実験や実習の場、授業においても優しく丁寧にご指導を戴けるので、勉学や実験技術について深く学ぶことができます。

令和元年度の卒業論文題目は以下の通りです。

氏名	卒業論文題目	指導教員
青木翔太朗	収穫祭来場者に対する屠場副産物の紹介	林　田
杉橋　孝則		
横田　千里		
荒　詩穂里	遺伝子改変による偏腎症の治療	庫　本
宮崎　絢子		
五十嵐裕二郎	繁殖豚の暑熱ストレスに対するアスパラガス給与の効果	黒　澤
生田　勇斗	ウズラの飼料中タンパク質向上の試み	黒　澤
池内　美里	ウシの乳汁中のエストロジェン濃度、脂肪酸組成、ビタミンB群における泌乳周期に伴う変動の調査	黒　澤
井沢　永	生体捕獲し短期間放牧飼養したエゾジカの肉成分～ミネラル成分～	林　田
岩田　悟		
野村　颯汰		
三島　紗月		
石川　勇飛	肉牛農家における調査研究	庫　本
竹内　豊		
水澤　洸大		
稲葉　健悟	肉用牛農家と乳用牛農家の新規参入にかかる費用と補助金	林　田
内田　翔也	ダチョウの産卵一年目における産卵頻度と卵質について	黒　澤
大野　彩夏	スピルリナの飼料原料化への試み	黒　澤
黒本　蒼太		
高木　才叶		
荻原　菜月	ダチョウ肉の臭い成分の探究	黒　澤
加山康之介	在来・外来等脚類における体成分中リン／カルシウム比率における分布域の検討	黒　澤
木内麻友香	自家製濃厚飼料が肉質に及ぼす影響	黒　澤
郷間　春菜	日本の水族館におけるバンドウイルカの飼養管理	庫　本
小坂　秋人	厨芥残渣を活用したブロイラー用飼料の確立	黒　澤
小林　海斗	新たな肉系ウズラの開発	庫　本
伊達　玄馬		
遠山　恭介		

小針　李菜	アトピー性皮膚炎の発症に関わる食事因子の特定	庫　本
佐藤　桃子		黒　澤
斎藤竜一郎	近年の世界的穀物相場推移と日本の畜産業の趨勢について	黒　澤
武内遼太郎	ダチョウの鞍装着部位および同定方法の検討	黒　澤
田辺　里美	ダチョウにおけるススキの利用性について	黒　澤
増田なるみ		
山口　修平	国産飼料用米給与による畜産物の付加価値について	庫　本
田邊　香音	GONAD法を用いたラットのゲノム編集技術の確立	庫　本

畜産物利用学研究室

本研究室は、多田耕太郎教授、入澤友啓准教授のご指導のもと、大学院M2生二名、M1生一名、四年次生二十五名、三年次生三十二名、研究生一名、総勢六十一名で構成されており、先進的な加工・分析技術を用い、新しい畜産食品の研究開発に取り組んでいます。

主に、乳・肉・卵に含まれる各種成分の化学・物理的特性や栄養・生理的機能特性を品種、個体、分子レベルで研究しています。また、先進的な食品加工技術である超高圧処理を用いた新しい畜産食品の研究開発、有用微生物による発酵を利用した畜産発酵食品の研究開発、さらには未利用状態にある畜産副産物（内臓、皮など）を活用する研究を行っています。

得られた研究成果を通じて食品の機能性や保存性の向上、製品加工工程の改善および新しい加工法の開発に利用されています。　研究活動では、三年次にハム・ベーコンをはじめとする各種畜産食品の製造実習、また食品の一般成分分析や生菌検査等の実験手順や操作方法を学び、四年次の卒業論文実験に活かして、より精度の高い研究を重ねていきます。年間を通して、新入生歓迎会、総会、納会、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会等を行い、互いの絆を深め、研究室の更なる発展目指して活動しています。

氏名	卒業論文題目	指導教員
青山　浩介	日齢差が与える「東京うこっけい」の肉質への影響	多田　入澤
上原　淳 林　楓	冷凍による牛乳の性状変化に関する研究	多田　入澤
大島　悠紀 吉田　萌香	高圧処理を応用した冷凍畜肉製品の開発に関する研究	多田　入澤
片岡　亜美 北澤明日香 三浦　采華	液体麹を、越智板畜産発酵調味料に開発に関する研究	多田　入澤
橘内　佑季 佐藤　涼香	発酵卵製品の開発に関する研究	多田　入澤
木山　優香 小西　香織	麹を用いた新規チーズ様食品の開発に関する研究	多田　入澤
小林　尚暉 築谷　元明	高圧処理が複合系材料中のタンパク質のゲル化に与える影響に関する研究	多田　入澤
佐藤　大輝 畑山　朋世	高圧処理が豚肉臓肉の性状に与える影響に関する研究	多田　入澤
立石　真吾 中野　克海	高圧処理がアクトミオシンのゲル化に与える影響	多田　入澤
辻本　直人 土田　陽康	新規発酵乳製品の開発に関する研究	多田　入澤
原　水穂 平沢　隼	畜産発酵食品の開発に関する研究	多田　入澤
日高マリナ	岡山県内の畜産関連業の現状に関する調査	多田　入澤
福井　萌香	ホエイを用いたミゾートス様食品の品質改良に関する研究	多田　入澤

家畜衛生学研究室

家畜衛生学研究室は、加田日出美教授、鳥居恭司教授、小林朋子助教のご指導の下、大学院生四人、四年生三十五人、三年生三十二名で構成されています。本研究室では、各自で希望する家畜別に牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ、動物たちの健康を維持するとともに飼育管理を通して各動物たちへの接し方、育て方を日々学んでいます。

調査研究としては、家畜衛生及び食品衛生を対象に農場や食肉のサルモネラ汚染、農場における牛白血病の感染要因や遺伝子解析、カビの汚染や発育、嫌気性菌・毒素の研究、などを大学院生、学部生と共に進めています。また収穫祭の文展では身近にある食中毒についてまとめました。内容としては、細菌の感染ルートにどのようなものがあるか、普段行っている手洗いでどれだけの菌が洗えているのかを実際に体験していただいたり、嘔吐したときの飛距離やどのような菌が潜んでいるかを知っていただいたりしました。それに加えて対処法や注意喚起なども行いました。

主な行事として、月二回の定例会、新入生歓迎会、収穫祭、研修旅行、餅つき、慰霊祭があります。これらの行事を通して各員は団結を深め、個々が目的を持って有意義な研究室活動を行っています。

なお、令和元年度の卒業論文の題目は次の通りです。

氏名	卒業論文題目	指導教員
荒川　慧	豚の腸管内細菌が生体内移行した大腸菌の分子疫学的解析	鳥居
飯塚　百音	カビ汚染素材に対する殺カビ性に関する研究	鳥居
石原　滉之	オゾンナノバブル水噴霧による鶏舎内浮遊細菌の低減	野口
一瀬　裕紀	神奈川県におけるＳＦＴＳウイルス及び、近年問題となっている伴侶動物疾病の抗体調査	加田
伊藤あぐり	リコンビナントウェルシュ菌α毒素による抗毒素の作製	鳥居
上田　兼司	ＢＬＶに対する抗原特異的な免疫応答の測定	小林
遅塚　彩	神奈川県Ａ市における牛白血病感染率の推移	小林
落合　優人	動物環境土壌中の好ケラチン性真菌について	鳥居

小野　拓実　マウスの複合筋活動電位（CMAP）によるボツリヌス毒素活性の測定　鳥居

鹿島　優樹　マウス卵巣移植における生着促進に関する研究　加田

川村　美紅　牛、豚および馬から分離された *Actinomyces Denticolens* の分子疫学的解析　鳥居

小松田遼太郎　山梨県における *Salmonella* Agona の outbreak 初期菌株（平成26～27年）の遺伝学的調査　鳥居

坂本　夏菜　ワクモに対するサポニンの有効性　鳥居

作間　寛生　神奈川県におけるSFTSウイルス及び、近年問題となっている伴侶動物疾病の抗体調査　加田

持宝　優希　山梨県における *Salmonella* Agona の outbreak 初期菌株（平成21～26年）の遺伝学的調査　鳥居

鈴木あさひ　ウシ乳房炎に対する特異抗体検出方法の確立　野口

諏訪　甚吾　*Escherichiia albertii* の運動性の調査　鳥居

石堂　菫　ブタ糞便由来 *Escherichia coli* の薬剤感受性試験　鳥居

高松　涼子　抗破傷風毒素モノクローナル抗体のエピトープの同定　鳥居

瀧澤　玲子　新種と思われる *Actinomyces* の生化学的性状試験と遺伝子解析　鳥居

蓼沼ゆり子　ブロイラーにおける胆嚢および膵臓の壊死と *Clostridium perfrigens* との関係　鳥居

谷本　准一　ラット小脳顆粒細胞を用いたボツリヌス毒素の毒性評価方法の確立　鳥居

戸畑　佑菜　鶏肉中のサルモネラ汚染調査　鳥居

仲　倫太郎　平成21～26年にかけて山梨県で分離された *Salmonella* Agona の病原性の評価　鳥居

仲間　美月　褐毛和種における牛白血病ウイルス感染牛のMHCハプロタイプ解析　小林

西野　竜平　ブロイラーにおける細胆管、胆嚢および膵臓の壊死の原因の究明　鳥居

野本　帆香　牛白血病パラフィンブロック標本を用いたBLV遺伝子検出と系統解析　小林

原田まどか　マウス卵巣移植における生着促進に関する研究　加田

松井　優実　PCR-RFLP法を用いたBLV遺伝子型3型の検出と系統解析　小林

宮古　涼平　平成21～26年にかけて山梨県で分離された *Salmonella* Agona の薬剤感受性試験　鳥居

宮本　夏蓮　神奈川県A市における牛白血病浸潤調査　小林

宮本　正志　鶏のマクロファージを用いた *Salmonella* Agona の病原性の評価　鳥居

村上　聡　ウェルシュ菌から分離される菌株の新毒素CPILEの毒性評価とその挙動　鳥居

若林　健仁　病変ブロイラー及び甲州地鶏の血糖値と肝臓内グリコーゲン量の比較実験　鳥居

ふじみの寄稿原稿（教員）

名称

家畜生理学研究室
原　ひろみ

「名前、名称はものを示す。」この一文よりも「全てのものに名前がある。」の方が解りやすい、当たり前と思うのではないだろうか。それは①もの（物）」を国語辞典で調べると【一．空間のある部分を占め、人間の感覚でとらえることのできる形をもつ対象、②人間が考えることのできる形のない対象、③妖怪・怨霊など、不可思議な霊力をもつ存在、④「…のもの」の形で】所有している物品・事物、⑤他の語句を受けて、その語句の内容を体言化する形式名詞と書かれている。】とある。一方の「名前」と「名称」を調べてみると、【「名前」は、物や人物に与えられた言葉のことで、対象を呼んだりする際に使われる。名称、あるいは単に名とも言う。】と書かれている。どちらも普段意識せずに使っている言葉で「物」とは、と尋ねられた時①の固有名詞、名称が頭に浮かびやすいからだと私は思う。そのため、動物種類がちがってもその体の中で同じ作用や機能をもつと同じ名前がつけられている。一方、見つかった順番やそれが違う作用や機能で発見されてきた歴史があると二つ以上の名称がある場合がある。ヒトの公的な氏名は一つだが、仕事やそのヒトが普段の活動で使っているは公的なそれと異なることがある。おまけに異なる個人でありながら同一同名というのが存在する。そうすると名前はいちいち説明することなく便利にそれを表す、示すためにあり、集団が変われば示すものが違うこともあると考えられる。動物の体の組織名、は食用に供される状態、筋肉組織がバラバラに部位毎に分けられてバラ、ロース、ヒレ、ささみ、食べ物になる臓器もホルモンとくくられ、ハツ、砂肝、ミノ、センマイなど用途が変わった時点で名称が変わる。ヒトが創る組織も同様に名称が変わったり、そのものがなくなったりする普遍のものではない。全く同じことを目的としていても集まる、集めるひとが変わると解りやすくしたい、他と差別化したい、逆に他と同じことを示したいときにもその名前を変えられる。大学の改革で学部内での学科構成と名称が変えられた。このことで「畜産」学科という名称を母体としていた「畜友会」も名称変更ではなく会を閉じることとなった。それに伴い、この「ふじみの」もあと一号を残し廃刊となる。現在畜産学科に所属し畜友会会員の三、四年生特に各役員やそれを支えてきた学生にはこの二年間大変な思いをさせたと思う。名称がなくなっても自分たちが成し遂げてきたことは様々な形で自分自身だけでなく、他の仲間、単に名称を知っているだけの誰かの中にも残る。ヒトが生活し、何かをするために使われる名前や名称はもともと変化してあたりまえであり、意識や認識するよりもあとで解る言葉、記号のようなものでしかない。

私は、学生時代は全くといっていいほど関わりを持たなかった畜友会に教員となって関係ないではいられなくなった。大学組織として何の権力も持たない私に監事を委ね、学生の皆さんは色々話してくれて、楽しい時間をすごさせてくれた。

学科全学生の交流、親睦を深め、統一として各部門をリードし、収穫祭運営に関わることを目的とした会である．三、四年生のみなさんが農大だからこその行事や仲間とすごした学科や会の名前は確かに畜産学科、畜友会であることは決して変わることはない。

大学で学んだこと、ともに過ごした仲間の大切さ

家畜育種学研究室
髙橋　幸水

皆さんは入学したころのことを覚えていますか。私は、福岡県出身ですが、とにかく東京に出たいと思い東京の様々な大学のことを調べました。そして、大学に入って何をしたいかと考えたかというと「おいしいお肉を作りたい」と「DNAの実験がしたい」ということでした。まぁ、第一の目的は東京に出たいがためである。第二の目的は、東京の大学を受験しようと考えている割には、大それた第二の目的を掲げたものだなぁと今でも思います。そして、上京するため、親を納得させる必要もあった。理由や目的はともあれ、私自身が大学で何を勉強し、身につけたいかの原点である。

皆さんも何かしらの目標を持って大学に進学されたと思います。そして、あっという間に四年間が過ぎてしまったのではないでしょうか。この卒業という節目に、四年間で何を学んだか振り返ってみてはいかがでしょうか。おそらくではあるが、全教科の授業内容を詳しく覚えている人はいないと思います。面白い授業であっても覚えていることはほんの一部かもしれません。そして、記憶に残ったことは、それぞれの授業において興味を持ったことや苦手なこと、嫌なことなどが断片的に記憶に残っているのではないでしょうか。しかし、それらがあるきっかけで複合的に結びつき一つのひらめきにつながったり、はたまた自身の考えが否定されることにつながったりすることもある。この

ような物の考え方はしたことがないよと思うかもしれませんが、実は皆さんがレポートを書くときにその知識を使って書いていたのではないでしょうか。さらには、その集大成として卒業論文を書き上げているのではないでしょうか。このように直接役に立ちそうでない知識でも何となく記憶に残ることで、何かをやり遂げようとするとき、何かを明らかにしようとするときに役に立つのではないでしょうか。例えば、マグカップは上から見ると丸い形をしていますが、横から見ると四角に見えたりしますよね。このように一つのものを様々な角度から見るということは、様々な知識や経験がないとできないと思います。皆さんはこのような考え方ができるように大学で学んだわけです。もちろん、専門的な知識も深められたことでしょう。きっと社会に出ても役に立つと思いますし、これからも知識や見識を広め・深めていくよう努力してください。

次に大学生活で共にした仲間は一生ものであることを忘れないでください。私自身、大学を卒業した直後の頃は意識していませんでしたが、年を取るにつれようやくわかってきました。私の友人には、大規模農家の経営をしている者や検疫官、畜産学科を卒業したのにも関わらずコンピューター関係会社に働いている者もいます。何が言いたいかというと、苦楽を共にした仲間が、様々な分野で活躍しているということは、新たな情報源や新たな人脈につながる可能性があるのではないでしょうか。それは、会社関係でのつながりかもしれないし、娯楽や趣味の世界でつながるかもしれない。さらには、仲間を介して学科を超えた農大というつながりに発展することも多いように感じます。ちなみに、こんな会社に農大卒はいないだろうと思っていても意外といたりします。卒業時には少ない仲間かもしれないが、いつの日になるか分からないが、仲間が仲間を連れてくることがあるということを忘れないでほしい。

そして、仲間を増やすために、自分自身を日々磨き良い人間関係を築いてほしいと願っている。

最後に、大学生活では畜産の勉強ができたのはもちろん、人間関係や物事の考え方など「形として残らないもの」ではあるが、今後数十年生きていくうえで役に立つものが得られたのではないでしょうか。

ふじみの第五十六号　畜友会の思い出

家畜飼養学研究室
黒　澤　　亮

僕は、畜産学科統一本部で家畜苑の運営を手伝いました。僕は、短期大学部生物生産技術学科から編入してきたので活動に参加したのは三年生の本部開きから本祭までの間のわずかな時期でした。一九九九年、この年は畜産学科が世田谷の収穫祭に参加する最後の年でした。学科が厚木に引っ越しをすることになるのは、栗原先生が厚木キャンパスの実験室の間取りを説明してくださっていたので何となく認識していたのですが収穫際の準備の頃にはあまり実感もなく過ごしていました。

僕は、三年生でも実質一年生みたいな感じで家畜苑の手伝いをしていたので後輩の伊藤君には、いろいろ苦労を掛けたことと思います。一応、立場は副委員長補佐みたいな感じだったかと思います。作業は、副委員長の伊藤君がやろうとしていることを手伝うといったところで、抜き板を同じ長さに切る作業をずっとやっていました。この板は、準備の最終日に夜中のうちに組み立てた家畜苑の入口と出口の門（一夜城だと思っていました）の屋根の装飾材料でした。電気のこぎりで切断して、ガスバーナーで焼き目をつけて、少し磨いての繰り返しでした。

この年は、長崎バイオパークからリャマが二頭（のちにサンちゃんとマルちゃんと命名されました）が家畜苑で展示されました。この二頭は、畜産振興会からの寄贈で収穫祭終了後、富士農場で十数年飼育されていました。彼らの搬入の日は、ひどい雨の日で、雨に打たれながら準備をしたのを覚えています。次の日から、メンバーの大部分が、体調を崩したのでかなりのインパクトがありました。

家畜苑の準備の中で最も印象に残っているのが、前述しました門の作製です。ちなみに、当時の畜産学科統一本部は、世田谷キャンパスの現在の経堂門のあたりに四号館という実験棟があって、そこが事務所になっていました。その正面が家畜苑用地でした。現在は、駐車場になっています。作業日には、23：00頃から作業を開始しました。夜遅くまで準備作業をしていた他学科の学生が、帰るのを見送って帰宅する学生がいなくなって静かになったころから開始したように記憶しています。遅くまで作業をしていた学生が帰った後に建設するので、『昨日の帰りにはなかったのに…』と驚いてくれると嬉しいな、とかピュアな気持ちいっぱいだったころの僕は思いました。この作業は、家畜苑以外のメンバーも手伝ってくれて、多くのメンバーで取り掛かったのを覚えています。その中でも、体育祭の練習で疲れて眠ってしまったメンバーをそっとしておいて、朝になってから手伝ってくれなかったことを、みんなで罵った（笑）ことが楽しい思い出です。わずか一か月でしたが、統一本部のメンバーを家族のように毎日過ごした日々は、大学ってこうなんだ、と協力して作業することとか、仲間意識とかいろいろなことを経験できました。

僕は、統一本部の活動は、短大でも本祭準備の一か月くらい手伝っていましたので、収穫祭の準備の雰囲気はわかっていたつもりでした。しかしながら、短大では、所帯が小さく、メンバーも少ないので、一人で何役もやって、研究室の学生に協力してもらって、どうにか参加するといった感じで、本部閉の時も、全部できて良かったね、とみんなで喜んでいたのが思い出になっています。でも、畜産学科では、特別企画、体育祭、神輿など多くの部門で、金賞とか優勝とか、準優勝とかで、第三者からみても優れ

ていると評価されるものを創り上げることの大切さを学びました。そのために、どのくらい努力するのか、どうやったら勝てるのか、これらのことは、二年間でしかも異なる環境で同じ行事に参加することで実体験を伴った貴重な経験となりました。

いずれにしても、勝つのがすべてではないのですが、一つ確実に言えることは人に勝つ、人から評価されることは、気持ちが良いものです。その気持ち良さは、僕の中で新しいことを始める原動力と、くじけそうな時の粘り強さに昇華されているように思います。

畜産学科統一本部は、僕に大切なことを教えてくれました。

これまで牛の御旗のもとに集った多く会員に感謝と敬意も込めて

ありがとうございました。

集う学友

貴重な体験

畜産学科
4年　岩　田　悟

四年間の大学生活を振り返ってみると、本当に充実していたなと思う。友達や先生、いい機会にも恵まれ、楽しくそして学びの多かった日々だった。特に三年生になり研究室に所属してから数多くの貴重な体験をすることができた。

私は、北海道で野生エゾシカによる森林被害が深刻化しているという話を聞き、興味を持ちエゾシカについて研究することにした。エゾシカの研究はオホーツクキャンパスで行われているため、現地に行ってサンプルをいただき、厚木キャンパスに持ち帰り実験を行った。また、学会やシンポジウムに行きエゾシカによる森林被害を抑えるための対策や有効活用についての話を聞いた。自分が興味を持ったことを調べることはとてもやりがいがあった。

三年生の三月上旬に、ミートジャッジング競技会に参加した。この競技会は二泊三日で行われ実際に牛と豚枝肉の格付を体験し、他校の学生と格付の正確さを競い合った。成績はあまりよくなかったが、冷蔵庫に入り、牛と豚の枝肉を見ることができたことと、格付の面白さを知ることができたことが良かった。また、他大学の学生と畜産のことについて話し合い多様な意見を聞くことができ勉強になった。

四年生になり、進路について考えるようになった。かねてから貧困で苦しんでいる人の助け手になりたいと思っていたが、海外は治安が悪く怖いとイメージがあり、なかなか踏み出せずにいた。そんな時に卒業論文の担当の先生がフィリピンでヤギを通して貧困助けるプロジェクトに携わっていたことがあり、その伝でフィリピンに連れて行くことができると言われ、この機会を無駄にしたくないと思い1週間フィリピンに行くことを決断した。プロジェクトの内容は農家さんに無料で妊娠ヤギを貸し、子ヤギを産ませ雌の子ヤギのみ返却してもらうものである。このプロジェクトを通して、農家さんにヤギを飼うきっかけを与えるとともに自活の道を支援している。プロジェクトの見学をさせていただいたが、ヤギの健康状態をすごく気にしている農家さんもいれば、子ヤギが産まれる前に売ってしまう農家さんもいた。実際に見学し話を聞くことで、ただ物を与えるだけでは貧困で苦しんでいる人の生活を根本的に変えることはできないと分かった。

東京農業大学に入学していなかったら、こんなにもたくさんの貴重な体験はできなかったと確信している。四年間の大学生活でさまざまなことに挑戦することができたのは、いろんな人との出会いと家族や友人、先生の支えがあったからこそだと断言できる。本当にありがとうございました。

繋がりとゴール

畜産学科
3年　日下部　英　介

私は普通科高校を卒業し東京農業大学畜産学科に入学しました。この大学を選んだ理由は食品関係の仕事に就きたかったからです。高校当時成績が良くなかったので死に物狂いで勉強しギリギリで合格することができました。しかし、合格の達成感で気が緩んでしまい、大学での勉強を怠ってしまいました。この時の私は大学受験をゴールとしてしまっていました。そこからは単位は取れれば十分だという感覚になりGPAが足りずに行きたい研究室にも入れませんでした。

しかし、そんな中でも私が得たものはたくさんありました。一つは仲間です。講義を共に学びテスト前には情報を共有し合い、助け合ってきました。勉強を怠っていたのにあまり単位を落とさずどうにかやってこれたのも間違いなく仲間たちのお陰です。また、サークルでも多くの仲間に恵まれ、学ぶものもありました。先輩からは年上としてのリーダーシップを、後輩からは責任を持つことの大変さを学びました。ともにプライベートでの交流もあり充実した交友関係を築き上げることができました。人との繋がりがいかに大事なものであるかを再認識することができました。

そんな私も三年生となり就活を考える年になりました。大学が国立でもなく大学内でも成績がいいほうではないのでここで差をつけなければいけないと思いました。この状況は私の大学受験当時と似ています。同様に死に物狂いでやらなければいけないことです。しかしながら、唯一変えなければならないことがあります。それは内定をゴールにしてしまわないことです。これからは社会人となりお金を頂いて働く立場です。ゴール地点を間違わないように就職活動に励んでいきたいと思います。

ただ、今は大学生でありまだまだこのキャンパスで学びたいことや楽しみたいことがたくさんあります。そのうえで改めて人との繋がりも大事にしていきたいことです。家畜遺伝育種学研究室に入り、また新しい交友関係も築けました。飲み会などで同級生とは腹をわって話せる関係となり先輩にも実験や就活の話などで仲よくしてもらっています。自分は今とても恵まれた環境にいるのだとたびたび思い知らされます。この恵まれた環境で大学生活をおくれることのありがたさを忘れずに将来に向けて気を緩めることなく、残り少ない時間を楽しく過ごしていこうと思います。

畜友会だより

令和元年度畜友会活動報告

令和元年6月1日～令和2年3月31日

令和元年

6月19日	令和元年度畜友会定期総会 令和元年度畜友会・畜産学科・動物化学科収穫祭実行委員会 （統一本部）の立ち上げ （於　第一講義棟1102教室）
10月2日	第20回厚木キャンパス収穫祭　及び 第128回体育祭厚木団結式　出席 （於　レストランけやき）
10月20日	厚木パレード　参加
10月31日	豊受大神宮奉献式　参加
11月1日	第20回厚木キャンパス収穫祭　前夜祭　参加
11月2日 2～3日	第20回厚木キャンパス収穫祭　参加 （家畜苑、研究棟アート、神輿展示、特別企画、宣伝隊）
11月4日	第128回体育祭　参加（於　世田谷キャンパス）
11月29日	第20回厚木キャンパス収穫祭　及び 第128回体育祭厚木畜産学科・動物化学科　慰労会　出席 （於　レストランけやき）
12月9日	第20回厚木キャンパス収穫祭　及び 第128回体育祭厚木 （於　レストランけやき）

令和2年

3月21日	畜友会誌「ふじみの」55号発行
3月21日	令和元年度　卒業祝賀会・卒業記念品贈呈 （於　厚木キャンパス）

平成30年度 畜友会 収支決算報告

収支決算書　平成30年6月1日～平成31年度5月31日

Ⅰ. 一般会計

収入の部　（単位：円）

科目	決算額	予算額	差額	備考
前年度一般会計繰越金	1,553,086	1,553,073	－13	
合計（A）	1,553,086	1,553,073	△13	

支出の部　（単位：円）

科目	決算額	予算額	差額	備考
収穫祭特別会計費	268,412	383,000	114,588	
ふじみの印刷費	274,482	300,000	25,518	卒業生210＋ふじみの制作委員20名
畜友会費返還金	7,500	15,000	7,500	1人返却、1人未返却分5月15日通帳へ
繰越金（平成31年度活動費）	0	785,073	785,073	
雑費	972	10,000	9,028	振込手数料
予備費	0	60,000	60,000	
合計（B）	551,366	1,553,073	1,001,707	
収支差額：(A)－(B)	1,001,720	0	△1,001,720	次年度繰越金

平成30年度　収穫祭特別会計収支決算報告

平成30年6月1日～平成31年5月31日

Ⅱ. 収穫祭特別会計

収入の部　（単位：円）

科目	決算額	予算額	差異	備考
一般会計からの繰入金	268,412	383,000	114,588	
普通預金利息	0	0	0	
合計（C）	268,412	383,000	114,588	

支出の部　（単位：円）

科目	決算額	予算額	差異	備考
統一本部	166,296	160,000	－6,296	①
宣伝隊	6,400	20,000	13,600	②
装飾	0	20,000	20,000	③
家畜苑	27,172	30,000	2,828	④
体育祭	68,544	100,000	31,456	⑤
雑費	0	3,000	3,000	⑥
予備費	0	50,000	50,000	
合計（D）	268,412	383,000	114,588	
収支差額：(C)－(D)	0	0	0	

①団結式の飲物代、料理代等
②厚木パレード衣装代
③
④ペンキ代
⑤応援合戦衣装代
⑥

上記の通り報告する。
平成30年6月18日

畜友会会長　桑山岳人㊞

監査報告書

畜友会会則第9章、29条及び30条の規定に基づいて平成30年6月13日に平成29年度業務及び会計監査を実施しました。

事業報告、通帳、出納帳及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。
平成30年6月13日

平成30年度畜友会監査委員

原　ひろみ㊞　　黒澤　亮㊞

織田聡美㊞　　上江洲安志㊞

平成 31 年度　畜友会予算

（平成 31 年 6 月 1 日　～　平成 32 年 5 月 31 日）

Ⅰ. 一般会計予算

収入の部　（単位：円）

科　目	当年度	前年度	差　異	備　考
雑　収　入	0	0	0	
前年度繰越金	1,001,730	1,553,073	△ 551,343	
合　計	1,001,730	1,553,073	△ 551,343	

支出の部　（単位：円）

科　目	当年度	前年度	差　異	備　考
収穫祭特別会計費	393,000	383,000	10,000	
ふじみの印刷費	600,000	300,000	300,000	
畜友会費返還金	0	15,000	△ 15,000	
繰越金（平成 31 年度活動費）	0	785,073	△ 785,073	
雑　費	5,000	10,000	△ 5,000	
予　備　費	3,730	60,000	△ 56,270	
合　計	1,001,730	1,553,073	△ 551,343	

特別会計予算案

（平成 31 年 6 月 1 日～平成 32 年 5 月 31 日）

Ⅱ. 収穫祭特別会計予算

畜友会援助費

収入の部　（単位：円）

科　目	H31 年度	H30 年度	差　異	備考
一般会計からの繰入金	393,000	383,000	10,000	
合　計（A）	393,000	383,000	10,000	

支出の部　（単位：円）

科　目	H31 年度	H30 年度	差　異	備考
統一本部	200,000	160,000	40,000	
宣伝隊	20,000	20,000	0	
装　飾	10,000	20,000	△ 10,000	
家畜苑	30,000	30,000	0	
体育祭	80,000	100,000	△ 20,000	
雑　費	3,000	3,000	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合　計（B）	393,000	383,000	10,000	

農友会学科助成金

収入の部　（単位：円）

科　目	農友会厚木支部助成金			備考
	H31 年度予算額	H30 年度決算額	差　異	
畜産学科助成金	1,284,000	1,187,428	96,572	
預金利息	0	0	0	
合　計	1,284,000	1,187,428	96,572	

支出の部　（単位：円）

	科　目	農友会厚木支部助成金			
		H31 年度予算額	H30 年度決算額	差異	備考
1	事務費	2,000	1,379	621	
2	記録費	0	0	0	
3	公用費	2,000	0	2,000	
4	交通費	42,000	21,000	21,000	
5	神輿代	120,000	99,111	20,889	
6	パネル代	150,000	136,000	14,000	
7	応援合戦・衣装代	180,000	169,400	10,600	
8	学内装飾費	357,000	350,142	6,858	
9	収穫祭体験企画費	429,000	408,560	20,440	
	鋼管リース代	111,000	107,795	3,205	
	運搬代	138,000	129,600	8,400	
	装飾代	150,000	141,061	8,939	
	活動運営費	30,000	30,104	△104	
10	雑　費	2,000	1,836	164	
	合　計	1,284,000	1,187,428	96,572	

令和元年度畜友会役員

令和元年６月１日～令和２年５月31日

役職（教員）	氏　　名	研　究　室
会　　長	桑　山　岳　人	家畜繁殖学研究室
副　会　長	白　砂　孔　明	家畜繁殖学研究室
	高　橋　幸　水	家畜育種学研究室

執行委員	氏　　名	研　究　室
委員長	３年　中牟田　泰　央	家畜生理学研究室
副会長	３年　橋　本　　論	家畜生理学研究室
庶　　務	３年　下　鳥　誠　行	家畜繁殖学研究室
会　　計	３年　高　橋　慎太郎	家畜生理学研究室
企画・渉外	３年　半　谷　安紗美	家畜飼養学研究室
編　　集	３年　大　畑　夏　帆	家畜飼養学研究室
監事（教員）	原　　ひろみ	家畜生理学研究室
	黒　澤　　亮	家畜飼養学研究室
監事（学生）	３年　木　原　龍　成	家畜生理学研究室

第二十回厚木キャンパス収穫祭・第一二八回体育祭事業報告及び結果報告

【事業報告】統一本部

今年度第二十回収穫祭及び第一二八回体育祭畜産学科・動物化学科統一本部の活動は例年と同じく、収穫祭宣伝活動・神輿作成・研究棟アート・特別ステージ企画・家畜苑・櫓装飾・体育祭演舞を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては、夏季休暇から各部門活動が本格的に始まり、第二十回目という大きな節目の収穫祭を例年よりさらに盛り上げるべく、第二十回収穫祭実行本部・農学科統一本部・バイオセラピー学科統一本部との連携をうまくはかりました。

畜産学科・動物化学科統一本部全体の活動としては、新入生歓迎相模川ＢＢＱ、スポーツ大会を開催し、統一本部の魅力を伝えられるように行事ごとを増やし、試行錯誤をしました。また、例年と同様に定期総会・懇親会・慰労会を行いました。また、厚木パレードでは予定日開催とはいきませんでしたが、予備日には天候にも恵まれ毎年楽しみにしてくださっている方々へ厚木キャンパス農学部の笑顔と熱気を届けられたかと思います。第一二八回体育祭では畜産学科全体が勝利へと一致団結し、去年と同様に惜しくも総合二位という結果になりました。これも応援してくださった先生方、畜友會を築いてきてくださった先輩方、同輩のおかげです。

来年度は、畜産学科から動物科学科へと名前が変わります。畜産学科の良い所も悪い所も動物科学科である後輩たちはよく見てくれていると思います。畜産学科の伝統である良い所は残し、動物科学科らしい統一本部を作っていってくれたらなと思います。

特別企画

今年度の特別企画部門の主な活動内容はステージ企画である二年生企画、三年生企画、バイオセラピー学科の企画のＮＣＮの参加です。二年生企画では「飴ちゃん探し」というボールの中に小麦粉と飴を入れて飴を探すゲームと「箱の中身はなんでしょうゲーム」という箱に予め何かを入れて置き手だけで探り、箱の中身を当てるという企画をしました。三年生企画では農大の美男美女を決める「ＮＢＣ」という企画を行いました。ＮＣＮでは統一アピール合戦を行いました。収穫祭当日では、ステージ企画の宣伝としてバルーンで犬やクマ、ウサギを作り子供たちに配りました。

今年度は、五月から企画内容を考え始め六月半ばに参与会議、九月半ばまでに細かい内容を決定し、進行台本を作成。十月に音響さんとの打ち合わせを行い、体育館でのリハーサルを二回行い当日に挑みました。企画の内容決定のための話し合いでは意見が噛み合わずぶつかることもありましたがその結果もあり納得のいく企画内容を考えられ当日も無事終えることができました。本番勝負というところも特別企画部門の良いところでもあり達成感を畜産だけでなく他学科や総務の特別企画の人と分かち合えることができました。

来年度は、畜産学科ではなく動物科学科へと変わります。今年度は畜産学科らしい盛り上がり方のステージ企画となったので来年はどんなステージ企画になるのか楽しみです。今年度はありがとうございました。

宣伝隊

宣伝隊の主な活動は、収穫祭を宣伝することです。そのために様々な場所に赴き、宣伝活動を行ってきました。

具体的な活動は、八月に行われた鮎祭り、ジャズナイトフェスティバルに参加し全學応援団のリーダー公開、農大名物大根踊りを披露してきました。

九月、十月は、本厚木駅、小田急線沿線上の駅周辺のお店等にビラやポスターを置かせていただく店回り活動、同じく駅でビラを直接配布する各駅宣伝活動を行いました。

十月二十日に厚木パレードを行いました。夏休みから神輿部門の方々が製作していた各学科の神輿を元気よく担ぎ、ウィンドオーケストラ部の演奏も厚木一番街に響き渡りました。ここでも大根踊りを全員で披露し厚木パレードは大成功でした。

そして迎えた収穫祭当日。野菜配布、抽選会ともに無事に終わりました。抽選会の景品は昨年度同様、農大と連携を結んでいる地域、企業の方々から頂いたものを使用しました。更に今年は、畜産学科の教授のご協力のもと、更に協賛品の種類を増やしました。

来年度からは畜産学科が動物科学科に、バイオセラピー学科が生物資源開発学科とデザイン農学科になります。これまであった畜産学科、バイオセラピー学科がなくなってしまいとても寂しい気持ちではありますが、新しい三学科各々の色を出していき、また新しい宣伝隊として来年度以降活動していければなと思っております。

神輿

今年度の神輿部門は、三年三人二年二人の五人で作りました。去年優秀賞を頂いて今年も優秀賞をとり二連覇をするため奮闘しました。

今年度我々が作った神輿には、枡組みの部分を変え毎年四角だった部分を棒状の木を同じ長さで板に貼りそれを段々に作り立体的な屋根にしました。側板は、馬、イノシシ、牛、鳥を色鮮やかにグラデーションし、獅子の彫り物を赤と青で派手に装飾していて二年生の個性的な側板になりました。本物をイメージした朱色の派手な装飾をした鳥居、柵の端に畜産の牛のマークなど細かな部分にまで気を使った柵などスッキリしてきれいな土台になりました。堂の部分には、五穀豊穣や子孫繁栄、健康成就などを司る風神雷神を描き、正面には千の手で多くの人々に救済の手を差し伸べ、千の目で人々を教え導く知をあらわす千手観音菩薩像を置き畜産や人々に対して意味を込めた神輿に仕上げました。屋根から担ぎ棒に縄の代わりにチェーンを巻きました。畜産学科の派手で柄悪いけど絶対に切れない信頼と仲間の絆をイメージして自分たちらしさを表現しました。畜産学科の「迫力ある堂々とした神輿」をイメージし、各それぞれの担当した部分で個性を出し今年も優秀賞を頂いて二連覇することができました。最後の畜産学科に相応しい神輿を作れたと思います。

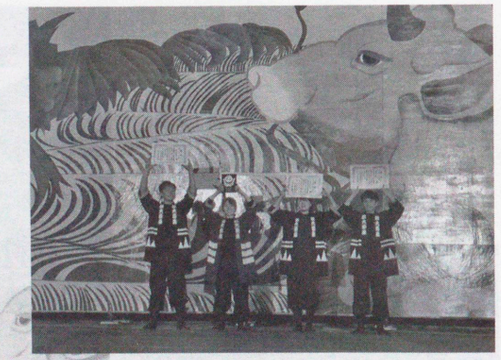
来年度は、もう畜産学科ではなく動物科学科となります。新しいスタートを切り動物科学科統一本部の時代を創っていってくれるとものすごく期待しています。来年度の新しくなった動物科学科統一本部の神輿部門をよろしくお願いします。

体育祭

今年は五四人で応援合戦を行いました。今年度で畜産学科統一本部として演舞を踊るのは最後ということで演舞の構成を考える前に先生方に歴代の畜産学科の印象や雰囲気をインタビューしました。その中で多くあがっていた「元気で賑やか」「団結力」「力強さ」の三つを取り入れて一、二曲目を作りました。三曲目は学年で振りを分けて、畜産学科統一本部の締めくくりを表現しました。

衣装は曲が和風だったため袖に和柄を入れ、色は来年度から使う動物科学科の祭旗と同じえんじ色にしました。また、背中には農大の創設者である榎本武揚先生の家紋を入れました。今年度の畜友會には最後の畜産学科統一本部と初代動物科学科統一本部がいます。この先続く農大の歴史の中でもこんなことあまりないと思うし、畜友という場所があるのも大好きな仲間と何かに一生懸命になれるのも広い目で元をたどれば、創設者である榎本武揚先生がいたからこそということで感謝の気持ちを込めて入れることになりました。

今年は競技二位、応援合戦五位、櫓二位、総合二位とすべてで入賞することができました。これも先生方、先輩方、競技に参加していただいた畜産学科の皆さんのおかげです。ありがとうございました。来年度は動物科学科としての初めての体育祭です。良いスタートダッシュが切れるよう皆さんの応援、また当日のご協力よろしくお願いします。



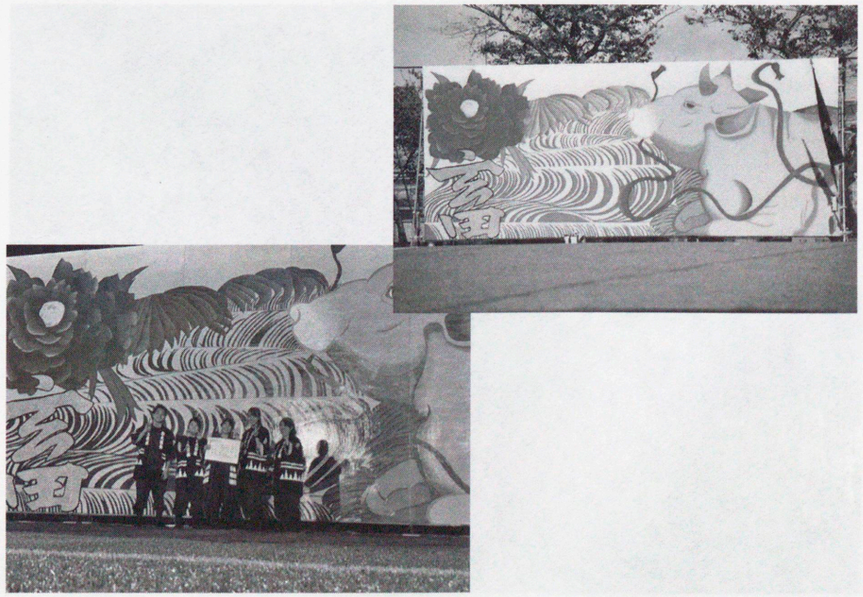
櫓

櫓部門では、大きなパネルにそれぞれの学科のモチーフとなる絵を描き、体育祭の時に世田谷キャンパスに展示し、順位付けがなされます。

今年度の櫓部門は、三年生二人、二年生三人の計五人で作業を行ってきました。今年は畜産学科最後ということで、畜産のモチーフでもある牛を昨年の絵とは全く違うニュアンスにして、優しい顔の褐毛和種を描きました。一輪でも映える十一月に咲く花といえば牡丹、その周りには川や草を描くことで自然の鮮やかさを表現し、全体的に明るい絵にしました。技術面の工夫としては、グラデーションを多く使用して色同士の壁を無くすことや、雰囲気が暗くならないように黒色を一切使わないことを意識しました。自分たちらしい櫓を完成させることができたと思います。

作業は夏休みから始め、体育祭までの約三ヶ月の間、五人で切磋琢磨し合いながら下書きや着色などを行いました。多くの方々の協力があったお陰で櫓設置まで無事に終わらせることができました。そしてパネルの部準優勝という賞を頂くことが出来て本当に嬉しかったです。

来年度から、畜産学科統一本部は動物科学科統一本部へ名称変更となります。初代動物科学科統一本部というプレッシャーがあるかもしれませんが、後輩達と仲良く、楽しく、良い思い出になるようなシーズンを過ごしてほしいなと思っています。是非、来年も素晴らしい作品を作り上げて念願の優勝を勝ち取ってください！



研究棟アート

今年も例年通り、畜友会装飾部門では研究室棟アートとして、けやき食堂側に8×10m×1枚、湘北短大側に10×10m×2枚の垂れ幕を下ろさせていただきました。

けやき食堂側の垂れ幕の案は装飾部門二年生が担当し、農学部をイメージするものとして、去年から新たに設立された動物科学科、生物資源学科、デザイン農学科を加えた、5学科に関連するものをデザインしました。湘北短大側は三年生が担当し、収穫祭の文字が入る方に、伴侶動物と秋を感じさせる収穫物の柿、日付を入れる方には、農大の畜舎で実験動物として存在しているがあまり知られていない生物をデザインしました。

収穫祭の文字が入る方に伴侶動物を描いた理由は、動物が好きという理由で農学部を志願した学生が少なくないと思ったからです。十数年間生きてきた中、人それぞれに動物が好きになった理由があると思います。その中でも伴侶動物というのは我々にとって一番身近な存在で、多くの人の動物を好きになるきっかけになっていると思います。歴代の絵とは一味違ったテイストですが、見た学生が自分の原点を思ったり、来場者の方が農大に興味を持ってくれていたら嬉しいです。

家畜苑

今年の家畜苑は、三年生二人、二年生四人の合計六人でシーズンを通し活動してきました。人数が少ないこともあり他の部門や一年生の力を借り作業を進めました。そのおかげで何とか無事に収穫祭を終えることが出来ました。

家畜苑の作業内容は、第一講義棟下の広場に設置する家畜苑門、撮影用パネル、ベンチや牛の置物やコーンの装飾、展示する家畜の説明パネルと背景パネル、案内看板を作成し、収穫祭の直前には家畜を展示する際の小屋を作成しました。また、収穫祭当日には、牛のブラッシング体験、ひよこのふれあい体験、バター作りを来客の方に体験していただきました。○×クイズも行い、たくさんの方に参加していただきました。他にも例年通り、特別企画部門と合同企画として家畜苑の会場内でのミニバルーン教室を両日一時間ずつ行いました。こちらもたくさんのお子さんにミニバルーンを作っていただきました。

去年の反省を活かし、今年は計画的に作業を進めよう思いました。

しかし、なかなか全員揃って活動できる日が少なく、夏休み中は作業が進みませんでした。夏休みが終わってもなかなか全員が揃って活動できる日が少なく時間だけが過ぎていきました。日が経つにつれ収穫祭当日も近くなっていき流石に皆も危機感が芽生え始め十月後半からは学校が終わった後、パチンコ屋に行く時のようなスピードで作業場に向かい、必死こいてありとあらゆる知識を振り絞って作業を進め、なんとか収穫祭に間に合わすことができました。本当にいろいろな人の協力があっての家畜苑の成功だと身に染みて感じています。ありがとうございました。

来年度こそは、今年の反省を活かしつつたくさんの人に頼り頼られながら皆で協力し最後の畜産学科統一本部のシーズンをバチバチに楽しみたいと思います。

【結果発表】

体育祭

総合順位……2位
競技の部……2位
応援合戦の部……5位
櫓装飾……2位

東京農業大学農学部畜産学科畜友会
〝畜友会〟会則

第一章　総則

第一　条　本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。

第二　条　本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。

第三　条　本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章　業務

第四　条　本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。

(1)会員相互の親睦
(2)講習会、研修会及び研究会発表の開催
(3)機関紙「ふじみの」の発刊
(4)大学行事（収穫祭等）への参加
(5)その他第三条に付帯する業務

第三章　会員及び役員

第五　条　本会の会員は次の通りとする。

(1)正会員　畜産学科の学生
(2)特別会員　畜産学科教職員ならびに大学院生
(3)名誉会員　役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。

第六　条　本会は次の役員を置く。

(1)会　　長　1名
(2)副　会　長　2名
(3)執行委員
　委　員　長　1名
　副委員長　2名
　庶　務　2名
　会　計　2名
　企画・渉外　2名
　編　集　2名
　監　事　4名

第七　条　(1)会長は会を代表し、会務を総理する。
副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理とする。また1名は総務を他の1名は会計を分担する。
(2)委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。
副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八　条　(1)本会には、連絡委員を各学年に置き、執行委員会の決定事項を会員に伝達する。

第九　条　役員および連絡委員の選出および任期
(1)会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会

長および監事は、会長が畜産学科教職員の中から推薦し、総会において決定する。

(2)執行委員および連絡委員は、総会において決定する。その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

第四章　総会

第十条　(1)総会は定期総会とする。

(2)総会は正会員および特別会員を持って構成され、本会の最高意思決定機関とする。

(3)定期総会は原則として年一回、六月に会長が招集し、開催する。

(4)臨時総会は会長が必要と認めた場合ならびに正会員および特別会員総数の4分の1以上の同意を得て開催目および招集理由を記載し、会長に提出する時招集開催することができる。

第十一条　総会開催は七日以前に公示しなければならない。

第十二条　(1)総会は正会員および特別会員の4分の1以上の出席により成立する。

(2)委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員の5分の1を上限とする。

(3)委任状の検査は執行委員が行う。

第十三条　定期総会は次の事項を決議する。

1. 前年度の事業報告および収支決算報告
2. 次年度の役員
3. 次年度の事業計画および収支予算
4. 会則の改正

その他

第十四条　総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条　議長は書記2名と議事録署名人2名を選出する。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条　総会の議決は出席者の過半数によって議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条　総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章　執行委員会および連絡委員会

第十八条　(1)第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。

(2)会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条　執行委員会は原則として月一回委員長が招集する。執行委員会は執行委員の3分の2以上

により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条　執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一条　執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。

第二十二条　連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開催することができる。

(1)連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2)連絡委員会は次の事項を処理する。

1. 執行委員会で決定した事項の伝達。
2. 一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3)連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三条　本会の事業年度および会計年度は6月1日に始まり、翌年の5月末日までとする。

第六章　会計

第二十四条　本会の運営は繰越金を以ってこれにあてる。

第二十五条　(1)会費は平成29年度より徴収しない。

第二十六条　本会の会計は、所定の形式に従って処理し、決算はすべて監事の監査を経なければならない。

第七章　機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条　(1)第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2)編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3)編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。

(4)編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もって執行する。

第八章　大学行事への参加

第二十八条　(1)第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2)設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。尚、内規は別に定める。

(3)委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章　監査

第二十九条　監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十条　監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認めた場合は臨時監査することができる。

第十章　付則

第三十一条　本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条　本会は平成31年度定期総会において平成31年度の各種活動報告の承認をもって解散とする。また、残金があった場合はその総額を平成31年度定期総会終了後に東京農業大学農学部厚木キャンパス農友会に寄付するものとする。

第三十三条　本会則は、昭和35年6月29日に制定された東京農業大学畜産学科〝畜友会〟規約を平成元年7月7日に一部改正し、それを元に平成10年2月20日に新たに東京農業大学農学部畜産学科〝畜友会〟会則を制定した。その後、平成23年6月23日、平成29年6月29日に順次会則の一部を改正し、これを施行する。

畜友会収穫祭内規

第一章　目　的

第一条　本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。

第二条　収穫祭は東京農業大学農友会厚木支部収穫祭規定第1条及び第9条に基づく収穫祭に参加する。

第二章　組織および役員

第三条　収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。

1. 統一本部
2. 宣伝隊実行本部
3. 特別企画実行本部
4. 学内装飾実行本部
5. 家畜苑実行本部
6. 体育祭実行本部

第四条　実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。

統一本部顧問　若干名
統一本部委員長　1名
統一本部副委員長　1名
統一本部会計　1名
各実行本部顧問　若干名
各実行本部委員長　各1名
各実行本部会計　各1名

第五条　(1)統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より畜友会会長がこれを委嘱する。
(2)統一本部委員長は畜友会執行委員、統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部委員長および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、畜友会会長の了承を得てから委嘱する。
(3)統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

第六条　(1)統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。
(2)統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者と協力して各本部の円滑な運営活動を助ける。
(3)各実行本部委員長は各実行本部の運営を担当する。

第七条　実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。
(1)6本部会議は、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部

会計ならびに各実行本部委員長、で構成し、畜産学科収穫祭全体の重要事項を審議する。6本部会議の議長は統一本部委員長がこれを務める。

(2)各実行本部会議は統一本部委員長、統一本部副委員長、各実行本部委員長および各実行本部担当者で構成し、各実行本部の運営活動を審議する。各実行本部会議の議長は各実行本部委員長がこれを務める。

第三章　会計

第八条　収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金ならびにその他の収入をもってこれにあてる。

第九条　予算は畜友会執行委員会で編成し、畜友会定期総会で承認を得る。

第十条　会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。

第十一条　決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

第四章　付則

第十二条　本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会で承認を得る。

第十三条　本内規は平成15年6月1日よりこれを実施する。

本内規は前内規を一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

各部門委員長より

チカラを糧に自分たちらしく

統一本部委員長
3年　中牟田　泰央

「こわっ。先輩ら、ヤクザみたいやな～。」この言葉が私と畜産学科統一本部、水澤洸大さんとの出会いでした。

私は、1年生の頃から畜産学科統一本部の活動に参加しており、はじめは何をやったらいいかわからない私たち1年生をヤクザのような先輩たちが統一本部について、活動内容について優しく教えてくださったのが今でも印象深く頭に残っています。収穫祭が近づくにつれて、終夜も多くなり体力的にも辛いのに、弱音一つ吐かずに活動をしている先輩たちを見て、大学生になっても1つのことに対して本気になれるなんて考えられませんでした。統一本部という団体に本気になっている先輩たちの姿を見て、私はこの畜産学科統一本部に参加することを決めました。1年生の活動を終えたときに、前年度畜産学科統一委員長の水澤洸大さんから「統一部門に入って、俺の舎弟になれ。」と声をかけて頂き副統一委員長になることを決めました。自分が皆を引っ張って行けるのか、先輩のように頼りになれる人になれるのか不安しかありませんでした。その時、水澤さんから「俺らには別に権力なんかない。皆が活動しやすい環境を作ってあげられるだけ。」というような言葉を下さって、私は自分ができる限りのことを畜産学科統一本部でして行こうと思いました。

2年生になり、副統一委員長としての活動が本格的に始まりすぐに私は副統一委員長の意味をはき違え、不満があれば考えずに口にしてしまい、皆が活動しやすい環境づくりをも忘れてしまい自分のしたいことだけをしてしまっていました。自分の行いで先輩や同輩にも迷惑をかけ、皆のことを裏切っていました。あの時、すべてを口にするのではなく少しでも洸大さんに相談していれば何か変わっていたかもしれないと今でも後悔しています。活動しやすい環境づくりをできなくて、迷惑をかけてしまいすみませんでした。そして洸大さん、あのとき1番迷惑をかけてしまい本当にすみませんでした。先輩方、同輩のみんな僕の為に話し合いをしてくださってありがとうございました。僕が今、統一委員長として活動を終え、ふじみのを書けているのは間違いなく皆さんのおかげです。

70代目畜産学科統一本部は、例年の統一本部の人柄とは一味も違ったメンバーが揃いました。だから何があっても楽しく、自分たちらしくやっていこう。畜産学科だけでなく農学部全体で盛り上げよう。ということを大切にしていきここまで来ました。時には、全員で1、2時間話し合い、全員で畜産学科最後である統一本部を作っていこうと努力しました。多くの困難な壁にぶつかりその都度、皆で手を取り合って協力できたおかげで無事、第20回収穫祭も大盛況に終わり、神輿部門ではNCN第1位を勝ち取りました。厚木パレード、本祭での神輿の練り歩きでは畜産学科が1番の盛り上がりをお見せできたかと思います。第128回体育祭では去年、惜しくも総合2位という結果で終わってしまったこともあり、全員で「打倒農学！総合優勝！」を目標に掲げ、前進しました。結果、競技の部2位・応援合戦の部5位・パネルの部2位…総合2位という嬉しくも悔しい結果に終わりました。しかし、農学部で上位3位を独占できたこと非常に嬉しく思います。自分たちらしく、楽しくしてきたことがこんなにも素晴らしい結果を生むことができ心の底からこのメンバーでよかった。自分たちらしくしてきてよかったと思っています。

すべて、無事に終わりここまで来られたのも先生方、総務部、農学科・バイオセラピー学科統一本部のみんな、全学應援團、OB・OG、研究室の方々のお陰です。本当にありがとうございました。

何より、1番感謝を伝えたいのは、頼りない僕をず――っと支えてくれた畜産委員長にしてくださった洸大さんのお陰です。沢山話すことはできなかったけれど洸大さんの下で長いようで短く濃い時間を過ごせて本当に良かったです。本当にありがとうございました。

さて来年度からは学科の名前も変わり、動物科学科統一本部となります。その初代委員長を務めますのは「塚島健吾」です。彼はとにかく優しく、良く周りが見えており私よりも信頼が厚い男です。私は、この1年彼と一緒に過ごして淡ましくなるほど、周りからの絶大な信頼を得ています。動物科学科統一本部の初代を引っ張っていけるのは彼、「塚島健吾」しかいません。といった断言をできるくらい凄いやつです。皆さん、彼の名前を覚えておいてください！

けんご！あんたはおれらの代の良い所も悪い所も見よるはずや。良い所はたくさん取り入れて悪い所は、捨てていき。そんで俺らが自分たちらしさを大切にしてきた様にあんたらの代らしい初代動物科学科統一本部をみんなで協力して作ってくれな！あんたらの好きにやったらええ。がんばれ！　けんご以外のみんなへ。ここまでついてきてくれてありがとうね。これからはけんごを中心にして新しいものを作っていってな。もし、けんごが辛そうにしとったらみんなでけんごをサポートしてあげて欲しい。頼むで。期待しています。

この1年間、畜産学科統一本部委員長として辛かったことも楽しかったこともたくさん経験することができました。前文でも申し上げました、最後まで自分たちらしくできたかと思います。こう思うことができますのは、桑山学科長を始めとする諸先生方におかれましては多大なるご尽力いただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

畜産学科、動物科学科の益々のご発展とご多幸を願って本年度畜産学科統一本部統一委員長中牟田泰央の言葉とかえさせていただきます。　ありがとうございました。

最後のステージ企画

特別企画委員長
3年　松宮　桃香

今年の特別企画部門はシーズンが始まる前から心配されていました。それはなぜかというと考え方が違う生き方をしてきた2人が3年生ということです。去年から何かと言い合いになってしまう関係なのにそんな私たちが3年生となり後輩に教えていき引っ張っていく存在とならなければいけないことです。なぜ私が委員長なのか特別企画部門をどう動かしていけばよいのか、後輩とどう関わっていくべきなのか不安でいっぱいのスタートでした。後輩は2年から入ってきた子で全員男子ということもあり絡んでいくのに悩んだ時期がありました。まずは、仕事を教えていき後輩が悩んだり躓いていたら相談に乗ってアドバイスしていこうと思っていました。しかし、私たち3年生企画である「NBC」の方が躓いてしまいました。初めに、NBCは美男美女を決めるのでガチで行くという意見と面白さで行こうという意見でうまく競技が決まらなく、ギリギリまで悩み、焦りと不安が募っていきました。そんな毎日が辛く感じてきてしまい逃げ出したい気持ちにさせられていきました。そんな時、後輩たちの企画も上手くいかないという話が出できました。それの相談にのっていくうちに、私たちが引っ張っていかなければいけないと改めて感じ、他学科の人に話を聞いたり、総務部の人と相談することによって、お互いの考えの妥協点を見出し、企画内容をまとめることができました。そして本番も無事乗り切ることができました。乗り越えられたのは橋本論が同じ部門として私が切羽詰まっている時や気が回らないときにフォローを入れてくれたり、なかなか後輩との距離がわからない時に、面白いことを言って人を巻き込んでくれたことで打ち解けることができました。そういうことを率先してやってくれることなどすごく尊敬してます。彼がいたからシーズンを乗り越えられたし彼でなければやってこれませんでした。本当にありがとう。本当に感謝しています。

来年度、委員長は吉田桂都にお願いしました。桂都は気を配れる優しい子でシーズン中は企画長として一緒に頑張ってくれました。相談にも乗ってくれて頼りになる存在の彼だからこそ委員長をお願いしました。そんな彼と一緒に特別企画を引っ張ってくれる人は馬場敢です。敢はお調子者で面白く気が付けば周りを巻き込み仲良くできる人です。間違ったことや疑問に思ったことがあれば言ってきてくれる人なのでそんな人が桂都の近くで一緒にいてくれればより良い特別企画となります。そんな二人を横尾吉平がシーズン中支えてくれました。吉平は作業効率も優れてよく、私がしてほしいことを頼む前に、自分で動いていてくれたからこそこのシーズンは本当に素晴らしいものになりました。この三人の頼もしい後輩がいてくれたからこそ最高のシーズンになりました。

そして最後に、三年生のみんながいてくれたからシーズンを乗り切ることができました。みんな面白い人ばかりで相談にも乗ってくれてみんながいてくれたから、委員長としてやりきることができ悔いのない畜友生活を終えることができました。本当にありがとう。そして統一委員長の中牟田泰央くん。一年の時から一緒に頑張ってきた仲間であり、自分も大変なはずなのに気にかけて時にはアドバイスをくれたり、相談に乗ってくれたり支えてくれてありがとう。泰央くんが統一長で本当によかったよ。

たくさんの思い出のある畜友會。終わってしまうのはとても寂しい気持ちでいっぱいです。最高の仲間に出会えて畜友會に入って本当によかった。幸せです。

最後になりますが、原先生をはじめとする諸先生方、総務部、他学科の皆さん企画の参加者の皆さんご協力いただき本当にありがとうございました。皆さんと関わることができて本当に幸せです。

第二十回収穫祭

宣伝隊委員長
3年　松澤　琉貴

宣伝隊は統一本部の中でも三学科合同で活動する唯一の部門です。

その為人数も多く、意見がまとまらない事も多々ありました。しかし、今年の宣伝隊はシーズンが始まってからの出席率がどの部門よりもよく、例年よりも早く各駅宣伝や店周り活動で配布する種子付きのビラを作ることが出来ました。これには副隊長を筆頭に各学科隊長、その他三年生の協力があり、それについて来てくれた二年生がいてくれたからこそだと思っております。その為例年十月に行っていた仕事も出来る限り九月にやろうと可能な限り前倒ししていきました。昨年では無かった夏休み中に休日をつくる事ができ、そこで宣伝隊全員で日帰り旅行も行きました。そこで更に宣伝隊同士の親睦を深め、学科、学年関係なく本当に仲良くなりました。

そして夏休みが終わり普段の学校生活が再スタートし、授業と宣伝隊の両立が始まりました。二年生はまだ授業も沢山あり、三年生は各々の研究室活動もあり、その両立はとても厳しく難しいものでした。ですが、宣伝小屋に行くと三年生、二年生がいつもいて授業や研究室の疲れなどなくなるぐらいとても楽しい毎日でした。

今年の各駅宣伝活動は雨で中止になることが多々あり、昨年に比べ日数が少なかったです。しかし、その分一日あたりに配る枚数を多くし四万枚全て配り終える事ができました。更に今年から、ポケットティッシュ一万枚も追加し計五万枚を配りました。

そしてついに迎えた厚木パレード。今年も各学科の神輿部門が制作した神輿を厚木一番街にて各学科元気よく担ぎました。厚木パレード練習の際、二年生がとても不安でした。しかし、その不安も打ち消すほどに本番ではとても活躍してくれて、大成功に終わりました。

三年生にとっては宣伝隊として参加する最後の収穫祭の日が訪れました。当日行われた、野菜配布、抽選会共に大成功でした。一つのクレームも入らず、円滑に事が進み気付いた時には二日目の最後の野菜配布が終わっていました。

私は、二年生の時宣伝隊を辞めようと考えていました。その時先輩、同輩から引き止められ、学科隊長に任命され三年生になりました。今考えると本当に辞めなくて良かったなと思っております。正直最初は学科隊長なんて務まるのかと不安でいっぱいで、先輩方が居なくなるという事が寂しかったです。しかしいざ三年生になるとなんて頼りになる後輩達が入ってくれたんだろうと思いました。その度にしっかりしなきゃなと自分を鼓舞し、活動してきました。本当に後輩達がゆきこ、らいき、きざすで良かったなと思っております。

そして最後に、初代動物科学科統一本部宣伝隊部門学科隊長のゆきこ。ゆきこなら絶対素敵な学科隊長になると信じています。新しく入ってくる新二年生とも仲良くやってね。一人で抱え込ますに、ゆきこの周りにはらいきときざすっていう頼りになる存在がいるんだから、絶対大丈夫。らいきときざすもゆきこの事支えてあげて、三人で仲良くやってね。期待してます。

本当の最後の最後につくしとねもっちゃんとみつき。あなた達と畜産学科統一本部宣伝隊部門に入れて本当に良かったと思ってます。心から感謝してます。本当にありがとう。多くは語らないけれど、本当に楽しかったよ。それだけ！

改めまして、宣伝隊にご協力してくださった先輩方、先生方本当にありがとうございました。来年度動物科学科統一本部宣伝隊部門をどうぞよろしくお願い致します。

パンドラの箱

神輿部門委員長
3年　池田　聖

今年の神輿部門は、たくさんいろんなことがあり、畜産学科統一本部は今年で最後ということで、去年優秀賞をとり連覇等のプレッシャーを感じ続けるシーズンでした。最初、畜産学科統一本部に入り部門はどこでもよくてどこでも頑張るつもりで、神輿の先輩に自分を取って頂いたことからはじまりました。自分は、細かいことが苦手で神輿とかほんとに小さなところまでやるイメージだったので心配でした。でも、意外と楽しくて自分の思ったものを作れたり形になったりたくさんの人に見て頂けることや完成した時の達成感を感じることができたりかなり充実したシーズンを過ごしました。

今年の神輿は、神輿らしさを求めながら畜産学科の伝統の堂々とした迫力ある神輿そこに自分たちらしさを表現しました。枡組みの部分を変え毎年四角だった部分を棒状の木を同じ長さで板に貼りそれを段々に作り立体的な屋根にしました。側板は、馬、イノシシ、牛、鳥を色鮮やかにグラデーションし、獅子の彫り物を赤と青で派手に装飾していて二年生の個性的な側板になりました。本物をイメージした朱色の派手な装飾をした鳥居、柵の端に畜産の牛のマークなど細かな部分にまで気を使った柵などスッキリしてきれいな土台になりました。堂の部分には、五穀豊穣や子孫繁栄、健康成就などを司る風神雷神を描き、正面には千の手で多くの人々に救済の手を差し伸べ、千の目で人々を教え導く知をあらわす千手観音菩薩像を置き畜産や人々に対して意味を込めた神輿に仕上げました。そして、屋根から担ぎ棒に縄の代わりにチェーンを巻きました。そこには畜産学科の派手で柄悪い荒々しい感じを表現しつつ、絶対に切れない信頼と仲間の絆をイメージして自分たちらしさを表現しました。3年3人2年2人、各それぞれの担当した部分で個性を出し、その努力を畜産学科の神輿としてうまくまとめることができたと思います。そしてなんと今年も優秀賞を頂いて二連覇することができました。最後の畜産学科に相応しい神輿を作れたと思います。

他学科の神輿部門のみんなとも仲良く協力してシーズンを送れたと思います。今年は三学科レベルが高い神輿を作り投票数が去年の3倍近い数投票して頂きました。お互いに意識しあえて協力できた農学科とバイオセラピー学科のみんなありがとうございました。他学科のみんながいてくれたからこそこんなにも本気になれてものすごく楽しかったです。

神輿は宣伝活動の一部で使用されるもので宣伝隊のみんなが宣伝してくれて、神輿の通る道を作ってくれて、宣伝隊がいてくれるからこそ神輿が来場者や町の人の目にとまり輝けたものだとものすごく感じています。特につくしが宣伝隊のトップでやるときはやるし、はっきりとアドバイス的な意味で物事を言ってくれてちょっとうざいなと思うときもあったけどけど助かりました。宣伝隊のつくしを筆頭にみんな感謝してます。ありがとうクチビル

そして、神輿を一緒に担いでくれた畜産学科のみんなほんとに感謝もしてるけどなんかもう大好き。1年も2年も3年も厳しいことも言ったかもしれんけど神輿は畜産学科統一本部のみんなが担いでくれて初めて畜産の神輿といえるものになれて一番輝いてた。みんなが必死に声出して他学科を圧倒するくらい練り歩きをしてくれるし助けてもらってばかりで申し訳なかったけどすごく愛してます。

みんながいてくれて一緒に過ごしてくれて、こんなにも互いに助け合って、言い合って、信じあって、人として大切なことをたくさん学べました。「この部門は何のためにやっているのか」根本的な部分を理解することでいい作品ができ、関わった人たちに感謝して、素直に見て頂いた来場者みなさんの声を聞き、純粋に収穫祭の成功を喜ぶ感情を知りました。いろんな観点から物事を感じてみんなとの人間関係や来場者のお客さんのことを考えてここまでこれたと思いました。心で見て感じないと、ものごとはよく見えてこないし、肝心なことは、目には見えないものなのかなとみんなとシーズンを終えて感じました。

来年は、もっとぶちかましてくれることを期待しています。過去には感謝、現在には信頼、未来には希望をもってがんばれぜんた、はな！みんなと出会えてよかった。畜産学科ドゥンドゥン最&高おおおおおおおおお！！！

大好きな場所

体育祭部門委員長
3年　大畑　夏帆

何もわからないまま入った畜友。一年生の時の体育祭はただただ緊張と不安で気づいたらすべての競技が終わっていました。正直体育祭が始まるまでは特に入りたい部門もなく、むしろこのまま今年でやめたいと思っていました。でも演舞のあとに先輩が泣いているのを見て、何かに真剣になっている姿ってかっこいいなと感じた私は体育祭部門に入りたい、そして競技でも総合でもなく演舞でもっといい結果を残したいと思うようになりました。

そして体育祭部門として迎えた二回目のシーズン。一年生の時一度も体育祭の仕事を手伝いに行っていない私は何したらいいのわかりませんでした。でも、優しくてゆるいかえでさんとじろさんがいつも面白おかしく作業を一緒にしてくれて、作業部屋である旧学生会館に行くのが毎日楽しみでした。沢山褒めてくれる二人にもっと褒めてもらいたくて、苦手なミシンの作業も頑張りました。演舞練では、人の前に立つこと、大人数を動かすことはとても難しいはずなのにかえでさんとじろさんはその人柄で難なくこなしていて二人の背中からたくさんのことを学びました。結果は総合二位。どんな時でも絶対に味方でいてくれた二人と過ごしたシーズンは幸せでとにかく楽しかったです。

そして委員長として迎えた最後のシーズン。最後の畜産学科統一本部として農学科の連勝をストップさせ総合優勝するしかないと意気込んでスタートしました。でも、今年の体育祭部門はこれでもかというくらいにいろんな問題が次から次へと降りかかってきました。どんな時でも自分がしっかりしていないといけないという責任感が強くなる一方で、毎日増えてくプレッシャーのせいで人の前に立つのが怖くなり、体育祭部門でいることも委員長でいることも途中で嫌になってしまいました。でもそんなとき絶対誰かが気にかけてくれて助けてくれて味方になってくれて、私はその優しさに何度も救われました。目標だった総合優勝はできなかったけど、大好きな畜友のみんなとりょうすけの考えた衣装を着て踊れて本当によかったです。ありがとう。

そして天才肌のゆうじろうと、頑張り屋さんのげんちゃんと、優しくて愛嬌のあるりょうた。みんなには沢山辛い思いさせちゃったけど文句も言わずずっとついてきてくれて支えてくれてありがとう。私は正直演舞が五位だったのが悔しくてたまらなかったけど、交代式の時に三人も同じ気持ちだったことを知って、体育祭の後輩がこいつらで本当によかったと心の底から思いました。三人がいなかったら最後までやりきることもできなかったし、笑顔で終わることもできなかった。全部三人のおかげです。今年の結果を超えられるのはちょっとだけ悔しいけど、三人なら来年もっと上に行けるって信じてます。新しく入ってくる後輩と素敵な体育祭部門を作ってね。りょうた、ちゃんと二人についていけよ。二人も置いていっちゃだめだよ。あなたたち三人のこと一番に応援しています。

次にりょうすけ。お互い負けず嫌い過ぎて二年間沢山喧嘩しけど、どんなに仲悪くなっても総合優勝っていう目標だけは同じで、それがあったからここまで本気でやれたんだと思っています。最高にかっこいい衣装を考えてくれてありがとう。私の中では十八学科の中で畜の衣装が一番です。色々あるけどあなたの居場所はここにあるからいつでも戻ってきてね。

最後に三年生。楽しい思い出をたくさんありがとう。みんな個性強すぎだし、頑固だし、時間にルーズすぎるけど、おもしろくて、優しくて、何事にも全力で、七十代目畜産学科統一本部がこのメンバーで本当によかったです。みんなと過ごした時間は一生忘れない、いや、忘れられない大切な時間です。

この代の体育祭部門で幸せでした。ありがとうございました。

最高の仲間たちと過ごした時間

櫓装飾委員長
3年　半　谷　安紗美

今年のシーズンは不安なことだらけでした。なぜなら、昨年は大好きな先輩方がいてくれたため心強かったのですが、今年は委員長である自分自身が部門全体をまとめなければならない立場だったからです。いつもヘラヘラしていてマイペースなわたしが果たして委員長を務めることができるのか…。そう悩んでいるうちに、あっという間にシーズンに突入しました。

わたしは計画を立てることが苦手な上に、絵を描くことも得意ではなかったため、今年は後輩に原画を考案してもらいました。本当にこんな委員長前代未聞ですよね、申し訳ありません。しかし、後輩が描いてくれた原画はとても素晴らしいもので、最後の畜産学科に相応しいものだと一目で確信しました。

原画が決まってからは、五人で協力しながら作業をこなしていき、順調に進んでいるように思えました。しかし、現実はそう甘くないもので、意見の食い違いなどからみんなの気持ちがバラバラになってしまったのです。委員長として何とかしなければならないという焦りから、全てが空回りしてしまい、目の前が真っ暗になってしまいました。そんなとき、手を差し伸べてくれたのは他でもない畜友の仲間たちでした。わたしの相談を真剣に聞いてくれたり、「何か手伝うことある?」と一緒に作業を進めてくれたり、面白おかしい話で笑わせてくれたり…今まで悩んでいたことが嘘のように吹き飛びました。それからは五人全員で話し合って再スタートし、それぞれが同じ方向を向いてがむしゃらに頑張りました。そしてあっという間に設置が終わり、前夜祭、収穫祭も終え、気が付けば体育祭当日を迎えていました。

結果は準優勝でした。昨年と同様に惜しくも優勝は逃してしまいましたが、悔しいという思いよりも全てを成し遂げたという達成感の方がはるかに上回りました。そんな思いが込み上げてきたのは、この三ヶ月間、楽しいことも、嬉しいことも、辛いことも、苦しいこともあり、その中で仲間たちと共に支え合いながら最後まで全力でやりきることができたからだと思っています。畜友のみんな、本当にありがとう。

櫓部門のみんな、こんな頼りなくてバカなことしかできないわたしと最後まで一緒に作業してくれてありがとう。みんなで他愛のない話をして、笑いながら作業をしていたことが既に懐かしく感じます。もうでっかい板やペンキと向き合うことがないと思うと少し寂しいです…（笑）天然で可愛い旬平、どんなことも真面目に取り組む朱里、ノリが良くて作業にストイックな唯沙、そしてずっと隣でわたしのことを支えてくれた碧、四人がいたからわたしは最後まで頑張れました。このメンバーでしか作り上げることのできない、今までで一番最高の櫓ができたとわたしは思っています。みんな大好きです。本当に本当にありがとう。二年生は来年もみんなで仲良く、楽しく、今年よりもっと良いものを作り上げてくれることを期待しています。初代動物科学科として頑張れ!!

最後に、畜産学科統一本部として活動した二年間は、二十一年間生きてきた人生の中で決して忘れることのない、とても大事な思い出です。畜産学科統一本部に入ったことで、最高の仲間と出会い、最高の時間を過ごし、大きな喜びや楽しさを感じることができました。そう感じさせてくれた仲間には、感謝してもしきれません。みんなと濃い時間を過ごすことができて良かったです。本当にありがとうございました。

後期の奨学金が尽きた。

装飾部門委員長
3年　木　瀬　康太郎

収穫祭も終わり約一ヶ月が経ちました。この一ヶ月間は、八月～収穫祭までの準備期間にかかった交際費、生活費、寸志代などを奨学金から賄ったため発生した借金を返済するためのアルバイト、卒業論文作成のための実験で毎日が埋まり、とても短く感じました。準備期間はアルバイトも実験も一切出来なかったので、貯金は尽き、研究室の同期とも進捗に差ができてしまったため、そのツケを払っているところです。このような状況ですが、当然、収穫祭準備期間中は焦りを感じていました。しかし焦ることしかできませんでした。

一昨年の後期、当時一年生の私は、色々なサークルに入会したりして知らない空気を感じることが好きだったので、畜友会にも入部しました。入部して数ヶ月後、二年生になって装飾部門での活動が始まりました。一年の頃は参加しておらず、新入生歓迎会以来ですので何をするのか全く知りませんでしたが、最初の活動はひたすらミシンで布を縫うことでした。夏休みが始まって休む間もなく活動が始まり、朝9時からミシンを動かす毎日。いつ頃までにあれを完成させないといけない、というノルマがあり、それを目指して活動していました。先輩の他に、同期は私の他に2人いたのですが、彼らは休むことが多く、1人で作業することも少なくなかったです。

こうして夏休みが終わり、後期になると今度は絵を描く作業に移り、加えて体育祭の準備も始まりました。体育祭の踊りの練習は主に夜の体育館で行われますが、実家から通っていますので途中帰るわけにもいきません。結果、収穫祭、体育祭が終わるまで朝から晩まで学校にいました。

同期も同じ気持ちだったのでしょう、当時の二年生3人はその年で全員辞める意向でした。しかし、そんなわけにはいかず、3人の中で最も活動に参加していた私は、来年度の装飾部門の委員長となりました。委員長は部門の責任を負いますので、委員長に任命された時、来年は全て私1人でやる感覚になりました。こうして二年生を終え、あっという間に三年生の活動が始まりました。

後輩の二年生を3人迎え、三年生は2人となり、夏休みから始めました。今年は作業計画を綿密に立て、また作業効率を重視し、去年の私のような思いを後輩にさせないよう活動しました。私は今年、作業はとても快適で苦に感じませんでした。後輩は全員、頭キレキレ作業が丁寧、終始何から何まで円滑に進み、本当に助かりました。

こうして二年間活動している最中、ずっと思うことがありました。作業に対してアルバイトのように賃金が出るわけでもない。作った絵が誰かに評価されるとか、順位が付くわけでもない。何をモチベーションにして活動すればいいのかをずっと考えていました。

結局最後わかりませんでしたが、このような中やってこられたのは、仲間の支えがあったからに他なりません。いつ飲み会に誘っても集まってくれるメンバーは最高でした。また、作業を終えた今、入部して得たものも多かったと感じています。二年間という短い期間ですが、入部する前と後とでは考え方や責任感に対する行動力など、他にも書ききれないほど成長できたと思います。辛かったことや仲間との何気ないやり取り、全てがいい思い出となりました。思い返せばこれ以上ないくらい濃密な二年間でした…。

ところで、もう一度一年生からやり直せるとしたら、私は畜友会に入ったでしょうか、皆さんはどう思いますか？

追想の刻

家畜苑苑長
3年　木原　龍成

今年の家畜苑は勢いとノリが魅力の三年生四人、何時でも冷静沈黙な二年生三人の計七人で長いようで短く濃いシーズンを送りました。

例年通り三年生が絵を担当、二年生が門を担当、一年生がベンチ、コーン、牛の模型の色塗りを担当で役割分担しながら活動しました。今年の家畜苑の活動目標はとにかく家畜苑内での派閥を起こさず楽しい雰囲気で活動する事は勿論のこと、計画的に作業を進め余裕を持って収穫祭当日を迎える事でした。実際は楽しく笑えの絶えない環境を作ることができ、尚且つ作業も円滑に進める事ができました。そして大きな派閥も起こさずにシーズンを過ごすことができ、自分としては目標を達成することができたのかなと思います。

さて、少し話は飛びますが一年生から続けてきた畜友会の活動にも終止符を打つことになりました。一年前の後退式で委員長法被を昨年度、家畜苑苑員長の豊さんから引き継ぎ、委員長を指名され自分がこれから一年間家畜苑の皆をまとめ船頭に立ちながらも、最期の畜産学科統一本部家畜苑部門としてこれまで先輩方が築き上げてきたものを越える、より良いものを作り上げることができるのか色々と不安だらけでした。二年生の頃は昨年の「ふじみの」の題名にもなった集合時間が十時なのに十五時に作業場所へ行ったりと大遅刻事件を勃発させ、世田谷キャンパスで行う体育祭前、最後の演舞練習も寝坊してスッポ抜かし、更に作業は全く進まず今の二年生には凄く助けてもらい本当にあの時は先輩、後輩の方々には多大なるご迷惑をお掛けしました。この場を借りてもう一度お詫び申し上げます、すみませんでした。前文のようにつまらん事ばっかして昨年は先輩の顔に泥を塗ることばかりしていた自分に委員長が務まるのかと思いながらも、委員長になったからには何があろうと「やるしかない」と思い昨年の反省を活かし作業面では一日単位と週単位でノルマを設け家畜苑全員で作業の進み具合を共有しながら進めていきました。その結果、皆が頑張ってくれたおかげでスムーズに作業も進めることができました。本当に皆には感謝しとる、ありがとう。

さて、再度話は飛びますが今年の絵のコンセプトは「家・畜・苑」と文字を一文字ずつに分け、また学科旗の牛のマークをメインに三年生で描きました。「家」を颯が農大の正門を背景に、「畜」を自分が櫓の絵と統一感を出したく地元の阿蘇山と褐牛と牡丹の花を背景に、「苑」を雅人が炎天下の下、広大な海を眺める美女とハイビスカスを背景に、「ロゴマーク」を誠行が畜産に必要な「水、粗飼料をイメージした草、太陽と月」を背景に描きました。昨年、先輩方が残された統一感を描く事が今年も実現できたのでよかったです。

門は、歴代のなかで遥かに完成度の高い箱根神社の鳥居を忠実に再現させ全て埋め込み式で作りました。業者に注文しないと無いサイズの木を埋め込み式で作った為、皆で必死に切っては、くりぬきサンダーで、やすって、やすっての繰り返しで気が狂いそうでした。しかし歴代最強に完成度の高い門を作ってくれた二年生は自分の自慢の後輩です、ありがとう。

一年生が担当してくれたベンチ、コーン、牛の模型の色塗りもかなりクオリティが高く驚きました。センス溢れた物を作ってくれて本当に感謝してます、一年生のみんな大好きです。ありがとう。

家畜苑は他の部門、研究室、富士農場、一年生などたくさんの方々の協力なしでは成功しない部門です。活動中も収穫祭当日も皆さんの協力があって成り立ちます。本当に感謝してもしきれないです。そして、今シーズン自分が一番感謝しているのが蟷虫セカセカ虫こと、ジゴンス先生の三年橋本論です。彼とはシーズン中、何かあればどっちかが相談に乗り話を聞いていての繰り返しでした。自分が色々抱えてる時に支えてくれたのは紛れもなくジゴンス先生です。本当に感謝しとるぞ。ありがとう。後、統一委員長の泰央もよう頑張った！お疲れさん。

さて、再度話は飛びますが今年で畜産学科とバイオセラピー学科として出場する最期の体育祭を農学部で1、2、3、フィニッシュで終われたのは本当に良かったです。また櫓2位、演舞5位神輿1位、NCN1位とどれも良い結果だったのでこれまたよかったです。皆がよく頑張った成果やと思います、お疲れさん。

自分は畜産学科統一本部に入って、本当によか思い出ができたけん満足です。

来年が本番の後輩には、動物科学科統一本部初代で色々プレッシャーもあるかもしれんばってん、そぎゃんとはなんも気にせんでよかけんただ単純に皆と仲良くかつ楽しく、そして後悔のなかごつシーズンを過ごして欲しいです。わけわからん伝統とか受け継いで残さんちゃよかけん、なんさん頑張れ!!

最後に家畜苑のみんな、つまなん自分についてきてくれてありがとう。

畜産学科統一本部の三年生、二年生、一年生、最高の時間をありがとう!!

編集後記

今年度もふじみの第五十六号を無事発刊することができました。皆様の手に届き、ご覧頂けていること心より嬉しく思います。

第二十回収穫祭では、天候にも恵まれて多くの方に来場していただきました。毎年恒例の野菜配布や大根収穫体験、家畜苑やサツマイモ堀体験も大盛況に終えました。皆様も忙しくも充実した時間を過ごすことができたのではないでしょうか。

また体育祭では、農学部の三学科で表彰台を埋めることができました。三学科で参加できる最後の年で123フィニッシュできたこと大変嬉しく思います。今年度は普段の活動から学科を超えて仲が良く各統一委員長を中心に、収穫祭を盛り上げてきたからこその農学部の結果だったと思います。来年から四学科になりますが今年の雰囲気を忘れずに尽力していただきたいと思います。

このふじみのが皆様の大切な思い出を思い出すきっかけになれば幸いです。

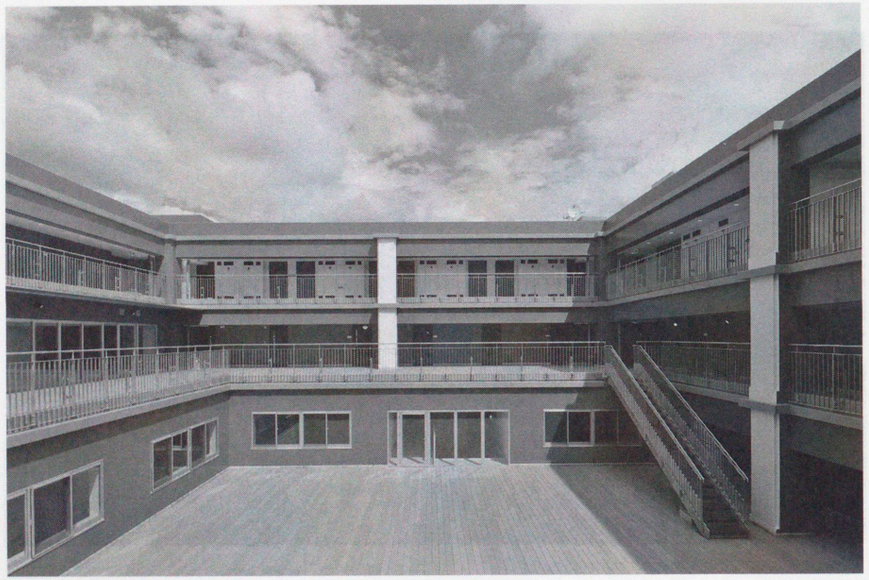
最後になりましたが、本誌を発刊するにあたり、お忙しい中ご寄稿くださった先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方々に深く御礼申しあげます。

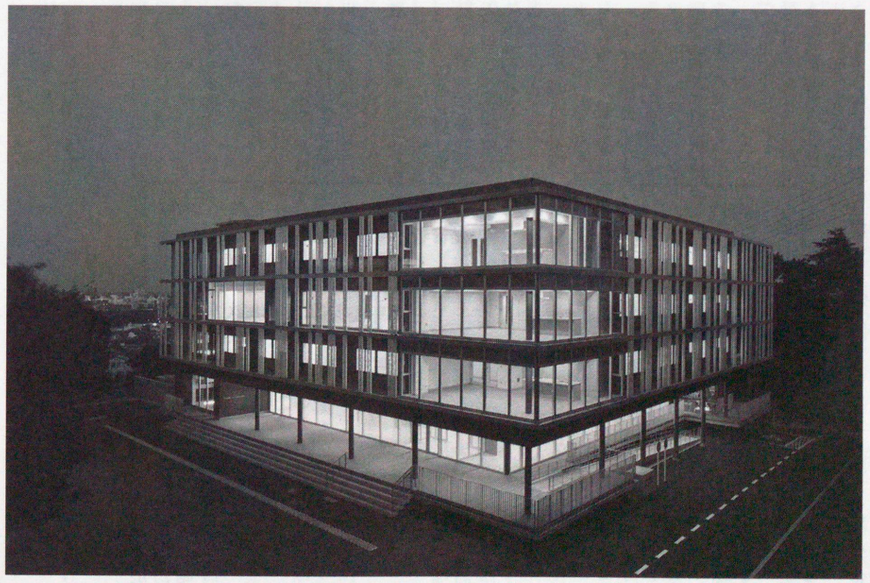
編集委員長　3年　大畑　夏帆

令和2年3月20日　発行
“ふじみの”第56号
ふじみの執行委員　大畑　夏帆

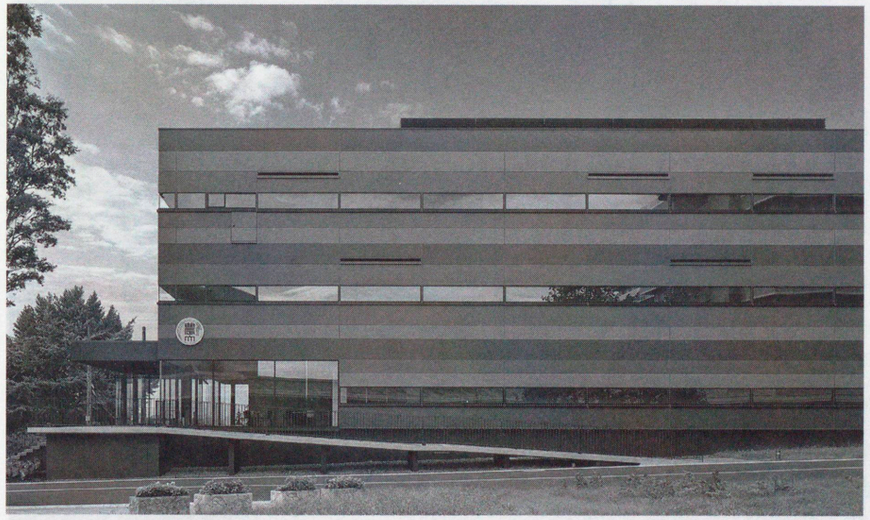
発行者　神奈川県厚木市船子1737
東京農業大学農学部畜産学科畜友会
電話 046(270)6220(総務課)

印刷所　東京都荒川区西尾久7-12-16
創文印刷工業株式会社
電話03(3893)0111





3
2
1



おいしいを支える。

ホロホロチョウはアフリカ原産の鳥で、欧州では高級食材として知られています。その卵は、ニワトリのものと比べ卵黄比率が高く、リノール酸やアラキドン酸等の不飽和脂肪酸を多く含んでいます。コレステロール値も低く、日本でも注目度が上がっている食材です。東京農業大学では、静岡県富士宮市の富士農場において約200羽を飼育し、卵の栄養成分の強化等の研究に取り組んでいます。

このたび、「地方創生を目指した6次産業化プロジェクト」の一環として、株式会社さがみベーカリーと連携し、「農大ホロホロプリン」を商品化、「サガミパン工房ブンブン」にて販売を開始しました。

濃厚でコクのある、クリーミーなホロホロプリン、ぜひ一度味わってみてください。

サガミパン工房ブンブン
046-205-0518
厚木市旭町1-36-1　8時～20時(日曜は19時まで)
火曜　20席　あり　本厚木駅南口より徒歩5分
農大ホロホロプリンは1個270円(税込)で販売
東京農業大学厚木キャンパス内にも店舗あり

東京農業大学

農学部／応用生物科学部／生命科学部
地域環境科学部／国際食料情報学部／生物産業学部

「食」と「農」の体験充実　／　1年生から理科・家庭科・英語を実施

東京農業大学稲花小学校 平成31年度開校予定（設置認可申請中）

- 基本情報　男女共学／入学定員72人／自校方式給食（週5日）
- 所在地　東京都世田谷区桜三丁目33番1号（東京農業大学世田谷キャンパス隣接地）
- 最寄駅　小田急線「経堂駅」／東急田園都市線「用賀駅」
- ホームページ　http://www.nodai.ac.jp/touka
- お問い合わせ　東京農業大学稲花小学校設置準備室
  Mail：touka@nodai.ac.jp　Tel：03-5477-2237

TOKYO NOUGYO DAIGAKU CHIKUSAN-GAKKA